

国際社会学科

■入門

230001 国際社会論

【到達目標】

- ・国際関係論、経済学、社会学、コミュニティ構想それぞれの視点を学び、国際社会研究のための基本的視点を獲得する。
- ・グローバル化によっていかなる問題が生じているか理解する。
- ・個々の問題の理解を通じて、グローバル化の全体像を理解するための能力を養う。

【概要】 グローバル化する世界の諸問題を考察することを通じ、国際社会学科で学ぶ基礎作りを行う。一方でさまざまな知を駆使して学際的に学ぶことの重要性、他方でメジャーを持ち、学問分野別に学ぶことの重要性を確認しながら、国際社会研究のための基本的視点を概観する。(チェーン・レクチャー方式)

1. イントロダクション：具体例をあげるなどして主題提示をし、グローバルとローカルという視点、開発・協力という視点、公共政策という視点、日本社会という視点、社会比較という視点という柱を立てて、国際社会の問題を考察することの意味について講述し、導入とする。
2. グローバルとローカルという視点1 (アジア)：アジアの現代的諸問題を素材にししながら、グローバル化の中での地域研究の実際について概観する。
3. グローバルとローカルという視点2 (欧米)：欧米(含ラテンアメリカ)の現代的諸問題を素材にししながら、グローバル化の中での地域研究の実際について概観する。
4. 開発・協力という視点：国際開発、国際協力の実際を概観しながら、先進諸国と途上国の関係のあり方について考察する。
5. 公共政策という視点：多様な主体による社会問題への政策的対応の理論と実践について概観する。
6. 日本社会という視点：グローバルな視点から日本社会の社会問題について考える。
7. 社会比較という視点：グローバル化する現代社会の諸問題を比較考察する。
8. 国際社会研究の 이슈：コメントペーパーや中間提出物などを利用しつつ、国際社会研究の 이슈となる論点を提示し、さらに受講者の質問も踏まえ、全体の整理を行い、国際社会研究のモチベーションづくりを行う。

■応用講義

230201 人文地理学

【到達目標】

- ・人文地理学の研究対象を理解し、その研究方法を習得する。
- ・地図の活用法を習得する。

・将来、地理教育の現場に立った際、調べ学習などの教材になりうるテーマを習得する。

【概要】 人文地理学の主要分野である地理教育史・歴史地理学・社会文化地理学を取り上げる。まずは、地理教育と地理教科書の歴史を学ぶ。続いて、歴史地理学・社会文化地理学の視点から、日本ならびに世界各地の事例を用いて、都市・宗教・ジェンダー・エスニシティなどの問題を考察する。

230202 自然地理学

【到達目標】

- ・自然環境および自然災害を地理学的に捉え理解する。
- ・地球環境変動および地震災害の原因と実態について理解する。
- ・地形図と空中写真を用いた地形判読をする知識と技術を身につける。

【概要】 自然環境および自然災害を地理学的に解析することを目標とする。地球環境変動および地震・地震災害の原因と実態について理解するために、地球温暖化、ヒートアイランド現象、エルニーニョ現象とラニーニャ現象、プレート境界型地震、活断層型地震などのテーマを取り上げる。地形図と空中写真を用いた地形判読の実習を行う。

230203 地誌学

【到達目標】

- ・地理を担当する教師として、多様な地域の地誌を教えるための基礎的な理論と方法を身につける。
- ・目的に応じて統計データを選択、加工する方法を取得する。
- ・変化する世界情勢に関心を持ち、既存の社会認識に対する新たな視点を獲得する。

【概要】 地理学・人類学・民俗学・経済学・歴史学などの学問分野と複層的に関連する地誌を学ぶ。なじみの薄いと思われる地域も積極的に取り上げ、多角的な視野から日本と世界の地誌を理解する力を身につける。講義では、地誌学を学ぶために統計データを取得する方法や、必要な資料をデータから抽出・作成する方法、地図の読み方なども習得する。

■基盤演習

230301 国際社会基礎演習

【到達目標】

- ・近現代における世界の政治・経済・社会の動きを理解する。
- ・現代の政治・経済・社会問題の歴史的要因を理解する。
- ・テキストを読み、内容を適切にまとめることができる。
- ・他の人が理解できるように報告することができる。
- ・他者の説明を理解して適切なコメントができるようにする。

【概要】 国際社会論の授業内容を前提にしながら、グローバル化する現代の社会問題、およびそれを考察する視点の基礎作りを行う。四専攻の学生と教員が少人数の混成クラスにわかれ、ゼミ形式で授業を行う。一方で、社会学、経済学、国際関係論、文化人類学、現代史など学問分野別の知を用いることの重要性、他方で、分野別の知を学際的に駆使することの重要性を、報告や討論などを通じて確認し合い、国際社会学科で学ぶことの意味はなにかを考える。

■卒業論文

230501 卒業論文

【到達目標】

- ・研究テーマを設定し、資料・文献を正確に理解する能力を身につける。
- ・問題を提起し、資料・文献をもとに仮説を立て、これを調査・実習等により検証して、明確な根拠に基づいて文章、論文を書く力を養う。
- ・卒業論文の中間報告を通じて、プレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力を養う。

【概要】 卒業論文は、学際的に視野を広げ、また学問分野の体系的な知を身につけた勉強の総決算である。国際社会学科において3年次までに学んだ講義、演習、社会調査実習などに基づいて、4年次当初に各々の研究主題を決める。4年次の演習とも連携しながら、個別の研究指導をくり返し、学生が自主的に研究計画を立て、それぞれの主題に見合った文献研究、調査研究を実施する。随時研究成果をまとめて中間的な報告を行い、その上で論文を執筆してゆく。卒業論文提出後は、副査1名を交えて口述試験を行う。

国際関係専攻

■入門

231001 国際関係論Ⅰ

【到達目標】

- ・国際関係論に関する基礎的な概念を理解する。
- ・国際関係の複雑さを歴史的に理解する。

【概要】 第一次世界大戦後に誕生した国際関係論とは、どのような学問であるのかを正しく理解することが第一の目標である。近代主権国家の誕生と戦争が果たす役割から始めて、勢力均衡政策が失敗し「世界大戦」に陥った過程を学ぶ。さらに、再び世界大戦を経験した国際社会が、いかに「冷戦」を戦ったかを講義する。国際関係の理解に不可欠な基本的な概念と理論の基礎を学んでから、リアリズムの立場に立って冷戦に焦点を当てて講義する。具体的な事例としては、「東欧」の成立過程とソ連型社会の特徴を検討し、キューバ・ミサイル危機では核戦略と危機管理を学び、ソ連のアフガニスタン侵略事件における外交と経済制裁の有効性を分析する。

231002 国際関係論Ⅱ

【到達目標】

- ・冷戦後、現代の国際関係の多面性を理解する。
- ・国際社会において生じた問題のいくつかについて、事例に即して具体的に理解する。

【概要】 冷戦終結後に一層複雑化している現代の国際関係を、冷静な視点で見つめ、分析出来る力をつけることが最大の目標である。冷戦後の世界では従来のように主権国家だけが国際政治の主役ではないことを、EU、国連、NGOなどが重層的に活動している状況から学ぶ。最初に冷戦構造の崩壊過程をソ連、ハンガリー、東独の事例を取り上げて講義し、現在の欧州における問題との関連を考察する。次いで核拡散、大量破壊兵器の規制レジーム、対人地雷規制条約で活躍したNGO、湾岸戦争、コソボ紛争、難民問題などの様々な争点を取り上げて概観し、その動向を分析して出来れば解決策を考える。

231003 文化人類学Ⅰ

【到達目標】

- ・文化とは何かを考える姿勢を身につける。
- ・文化相対主義を理解する。
- ・文化人類学の研究手法と視点を習得する。
- ・文化の中で育った人間の文化から受けた影響について考える力を養う。

【概要】 社会と文化の相対性を理念として掲げ、個々の社会の文化的伝統や歴史的文脈を

視野に収めながら、総合的に人間研究を行ってきた文化人類学という学問に関する入門的な講義である。文化人類学の発展の歴史や、その研究手法であるフィールドワーク、比較文化的総合的な研究視点などを俯瞰し、それぞれの民族集団が環境に適応して創造した採集狩猟、牧畜、農業などの文化および産業文明を学習し、文化人類学や心理人類学の研究課題である文化について学ぶ。

231004 文化人類学Ⅱ

【到達目標】

- ・ 人類の有史以来の様々な生活様式を理解する。
- ・ 人間社会の経済活動を人間の環境への適応の角度から理解する。
- ・ 家族、親族集団、地域社会などを社会的協力のシステムとして理解する。
- ・ 宗教信仰と価値体系を理解する。

【概要】 環境への適応戦略としての経済システム、親族や年齢集団、地域共同体、政治組織などの社会的協力のシステム、宗教・神話・儀礼などの信仰と価値のシステム、民俗医療と医療人類学、文化とジェンダーなどについて理解する。文化や社会の多様性と多元性、その構成の仕組み、時代とともに変容する生成性、文化の人間に対する影響などを理解し、そして、文化的他者への理解を介して自己理解を深めることを目的とする。

■基礎講義

231101 政治学概論

【到達目標】

- ・ 政治学の基礎概念についての知識を習得する。
- ・ 政治の現状を政治学の基礎概念を用いて操作可能な形で批判的に理解する能力を養う。

【概要】 公の空間においてはすべての問題が政治的問題化となる。したがって環境問題や食品偽装問題も政治学の対象になる。また時代が変わっても政治的なるものの本質は変化しない。そのようなスタンダードな政治学を国際政治学まで含みながら講義する。政治思想、政治意識、政治指導者と大衆、官僚制、政党、マスメディアの政治的機能、政治体制論、更に、国際政治に関しても講義する。

231102 法学概論

【到達目標】

- ・ 法律・法制度に関する基本的な知識を習得する。
- ・ ものごとに対する法的な考え方を理解する。
- ・ 現代社会の諸問題を法的観点から分析する能力を獲得する。

【概要】 法律学の基礎を学ぶ。法とは何か、また社会と個人との関係を構築する法的な思

考を養う。現代社会において法律の果たす役割を学び、法的な考え方を理解させる。個人の人権や権利が侵害されたときに、いかにして法律を利用してその擁護を図るかが課題である。日本国憲法と民法の基礎部分、さらに社会との関連で行政法などにふれた後で、国際法の基礎的な要素も考察する。

231103 日本史概論

【到達目標】

- ・原始・古代から現代までの日本歴史の概要について理解を深める。
- ・日本国家の形成、政治・社会のあり方、また日本人の思想等についての変遷に関する歴史的事実を習得する。
- ・日本の歴史を国際関係との関わりからみる視点を養う。

【概要】 この授業では、原始・古代から近現代までの日本の歴史について概観する。日本列島における日本国家の形成や政治・社会等のあり方とその歴史的变化、及び諸外国との関係をみていくことにする。そこでは中央政治のみならず、地方政治のあり方、また朝廷や幕府などの武家政権のみならず、一般民衆の生活や思想、信仰などにも論が及ぶことになる。さらに国際関係、とりわけ東アジア世界や西洋諸国との関係が、日本の歴史を考える上では不可欠であるので、その点についても講義を進める。

231104 東洋史概論

【到達目標】

- ・アジアの歴史について大きな流れを理解する。
- ・日本にとってのアジアの意味とその理解の変化について理解する。
- ・今日のアジアにおいて顕在化している諸問題について、歴史的視点から考える姿勢を身につける。

【概要】 東アジアを中心とするアジアの歴史を古代から現代まで概観することにより、この地域において生起する諸問題を歴史的視点から理解する習慣を身につけるようにする。重要と思われるトピックをいくつかとりあげて、その歴史的背景について整理、紹介する。あわせて近代日本における東洋史学の成立や東洋史学上の重要な論争にかんする史学史を概観することにより、近代以降の日本が「東洋」を通じてどのような世界像を描こうとしてきたかを批判的に検討する。

231105 西洋史概論

【到達目標】

- ・西洋史における時代区分の意味を理解する。
- ・西洋の地理的変遷を理解する。
- ・西洋人にとっての西洋観の変遷、および日本人にとっての西洋の意味とその変化を理解する。

【概要】 古代から現代までの「西洋」（米国を含む）の歴史を概観することにより、この地域において生起する諸問題を歴史的視点から理解する習慣を身につけるようにする。その際、古代・中世・近世・近代・現代という時代区分の意味や「西洋」の地理的範囲の時代による変化、また、西洋人にとっての「西洋」の意味や日本人にとっての「西洋」の意味とその変化にも注目する。

231106 東アジア社会基礎論

【到達目標】

- ・日本、中国、朝鮮半島など、東アジア諸地域の社会について、その特徴を理解する。
- ・社会や文化を理解する基礎的な方法を習得する。

【概要】 地域研究の基礎として、東アジア諸地域の社会を理解するための基礎知識の習得をはかる。日本、中国、朝鮮半島など、それぞれの地域の社会について、具体的な事例をとりあげつつ、基礎的な分析方法を紹介し、あわせてそれぞれの地域の比較や欧米社会等との比較を通じて、その特徴を理解することを試みる。それによって、東アジアの諸地域について、歴史、文化、思想、宗教、政治、経済などを総合的かつ多面的に理解するための基礎を身につける。

231107 東南アジア社会基礎論

【到達目標】

- ・東南アジアの風土・人間・社会・文化について、基礎知識を身につける。
- ・日本の社会・文化と比較しながら考える姿勢を身につける。

【概要】 東南アジアの諸社会を特徴づける自然風土、言語、民族、社会構造、宗教、政治、日常生活などについて、初学者に基礎的な知識と理解を持たせる。この授業では、とりわけ、東南アジアの伝統的社会の文化的多様性・多元性と統一性、ポストコロニアル国家による「国民の文化」「国民の歴史」の創出の手法、開発と人権、国家と部族、中間層の出現などのトピックからいくつかの事例を取り上げて、東南アジアの理解の土台を学ばせる。

231108 アメリカ社会基礎論

【到達目標】

- ・アメリカ社会の成り立ちを理解する。
- ・アメリカ社会の特徴を理解する。
- ・アメリカ社会の通時的变化を理解する。

【概要】 この授業では、アメリカ社会を特徴付けてきた宗教的・思想的背景はどのようなものであったかを、植民地時代から現代に至るまでをいくつかの時期に分けて、トピック別に考えてみる。世界の超大国、デモクラシーの旗手としてイメージされるアメリカ合衆国の社会が、いかなる発想によって統合されてきたかを考えるきっかけを与える。

231109 国際関係史

【到達目標】

- ・20世紀以降の国際関係史の概要について理解する。
- ・今日の国際社会において生起する諸問題について、それを歴史的視点から理解する能力を身につける。

【概要】 現代の国際関係を理解するために、主に20世紀からの国際関係史の知識を得ることを目標とする。急速に一体化していく現代世界は、国内政治の動きだけではなく、貿易や外交交渉を通じた国家間関係、国境を越えた国際的組織の動向に大きく影響される。このダイナミズムを把握させることとしたい。この授業では、20世紀初めの2つの世界大戦と、この両大戦間の歴史的考察を行い、戦争と平和の問題について論じる。

■応用講義

231201 ジェンダー国際関係論A

【到達目標】

- ・ジェンダーという概念を理解する。
- ・国際関係における女性の歴史的役割を理解する。

【概要】 女性は国家間外交においてどのような役割を果たしてきたのかを歴史的視座から考える。宮廷外交、19世紀後半から20世紀前半にかけての帝国主義時代における国家間関係、19世紀後半に始まる外交官の専門化といった局面において、女性はどのような立場で、どのような役割を果たしたのかを学ぶ。ジェンダーは国際関係においてどのような機能を付与されてきたかを考えてみる。

231202 ジェンダー国際関係論B

【到達目標】

- ・ジェンダーの概念を理解する。
- ・多様なレベルで展開される国際関係の現状を理解する。

【概要】 現代の国際関係における女性の役割について考える。グローバル化が進む現代において、国際関係とは単に国家間で取り結ばれるだけではなく、民間レベル、個人レベル等で広く経験される事象になっている。この状況の中で、女性はどのように国際関係の舞台に登場しているのだろうか。外交のプロフェッショナルとしての女性はもとより、国際労働移動の女性化など、多角的な局面における女性の役割や経験について学ぶ。

231203 人間の安全保障

【到達目標】

- ・人間の安全保障概念の形成と発展について学ぶ。
- ・国連などの国際組織や NGO の人道的支援活動について学ぶことで、人間の安全保障の実際の理解を深める。
- ・将来国際社会において貢献するために必要な能力の基盤となる知識を身につける。

【概要】 国連開発計画で提唱された人間の安全保障概念が生まれた背景についてまず学び、従来の安全保障概念とは異なる人間の安全保障概念の内容について考察する。特に「保護する責任」「人道的介入」などについて深く考察する。そして国連などの国際組織や NGO が行っている緊急人道支援や難民支援等の具体的な活動を検討することで、人間の安全保障の現状の問題点と将来の課題について考える。また人間の安全保障とジェンダー的視点の連関についても考察する。

231204 日本政治外交史 A

【到達目標】

- ・戦前日本の外交が、江戸後期以降の国際関係の変動に応じて、どのように展開されたのかについての理解を深める。
- ・とくに国際関係の秩序原理と日本外交の国際認識の諸相についての基礎的理解を深める。
- ・総じて、幕末以降の東アジアの国際関係の変動が、西洋的国際関係とアジア的国際関係の衝突としての側面をもつということについての理解を深める。

【概要】 戦前日本の外交が、江戸後期以降の国際関係の変動に応じて、どのように展開されたのかを考察することにする。とくに国際関係の秩序原理と日本外交の国際認識の諸相についての基礎的理解をえることを目的とする。とくにこの講義では、ウェストファリア体制・華夷秩序・大君外交体制という三つの国際関係の内容を理解し、幕末以降の東アジアの国際関係の変動が、西洋的国際関係とアジア的国際関係の衝突としての側面をもつこと、それに対して徳川幕府がどのように対応しようとしたのか、それが日本近代にどのように影響したのかなどを考察し、理解を深めることにしたい。

231205 日本政治外交史 B

【到達目標】

- ・戦前日本の外交が、江戸後期以降の国際関係の変動に応じて、どのように展開されたのかについての理解を深める。
- ・とくに国際関係の秩序原理と日本外交の国際認識の諸相についての基礎的理解を深める。
- ・総じて、西洋的な国民国家をめざした明治日本が、華夷秩序と西欧国際体系が混在する東アジアの国際関係のなかで、いかなる外交を展開したのか、戦前日本の外交構想および政策に対する理解を深める。

【概要】 戦前日本の外交が、江戸後期以降の国際関係の変動に応じて、どのように展開されたのかを考察することにする。とくに国際関係の秩序原理と日本外交の国際認識の諸相についての基礎的理解をえることを目的とする。とくにこの講義では、西洋的な国民国家をめざした明治日本が、華夷秩序と西欧国際体系が混在する東アジアの国際関係のなかで、いかなる外交を展開したのか、日清・日露戦争後にいかにして西洋列強に並びたとうとしたのか等に焦点をあて、戦前日本の外交構想および政策に対する理解を深めることにしたい。

231206 朝鮮政治外交史 I

【到達目標】

- ・朝鮮近代における日本による植民地化過程と植民地統治について基礎的知識を習得する。
- ・植民地からの解放後、独立した韓国と日本の国交正常化と正常化後の日韓関係についての基礎的知識を習得する。

【概要】 近現代における朝鮮（韓国）の政治外交を日本との関係に焦点をあてて深く理解することを目標とする。日本による植民地化の過程、植民地統治が具体的にどのようなものであったのか、そして植民地統治が終わってからの日韓関係において国交正常化をめぐる政治外交上、何が課題であったのか、正常化後における日韓関係が具体的にどう展開していったのかを考察していく。

231207 朝鮮政治外交史 II

【到達目標】

- ・解放後の朝鮮半島における南北分断の過程とその後の南北関係について基礎的知識を習得する。
- ・解放後、独立した韓国における政治体制とその変容について基礎的知識を習得する。

【概要】 日本の植民地支配からの解放後、いかにして南北分断となり、分断後の南北関係がいかなるものであったのか、とくに朝鮮戦争がどういう意味を持ったのか、また韓国における長期にわたる権威主義的政治体制が具体的にどのようなものであったのか、この権威主義体制のもとで民主化運動がどのように展開し、民主化をどのように実現したのかを考察していく。

231208 中国政治外交史 I

【到達目標】

- ・前近代の東アジア世界の秩序を理解する。
- ・東アジアにおける王朝国家と近代国家について理解する
- ・19世紀から20世紀前半の中国の対外関係を、中国国内の動向と関連させながら、その歴史の変遷を理解する。

【概要】 近代以前に中国を中心に成立していた東アジア世界が19世紀以降、西洋近代と対

峙しつつ、どのような変容を遂げたのか、中国とその周辺との関係を、中国内部の動向と関連させながら、20 世紀前半までを概観する。清朝という王朝国家を倒して近代国家を建設し、近代的な外交に取り組むことによって亡国の危機を脱する試みのなかで、中国は何を、どのように考えて、行動したのかを中国に即して理解できるようにする。

231209 中国政治外交史Ⅱ

【到達目標】

- ・ 20 世紀半ば以降の中国の対外関係を、国内の動向とも関連させながら、その歴史の変遷を理解する。
- ・ 近年の中国の「台頭」の歴史的背景を理解する。

【概要】 20 世紀半ば、第二次世界大戦の戦勝国として戦後秩序の構築に参画した中国が、内戦や冷戦など、その後の大きな変動のなかで、どのような紆余曲折を経て、近年再び大国の地位に復帰しつつあるのかについて、内外情勢を関連させながら概観する。国民党と共産党の対立、中国にとって社会主義とは何だったのか、等について歴史的背景を踏まえて考えることで、現在の中国や東アジアについての理解を深めることを目指す。

231210 アメリカ史Ⅰ

【到達目標】

- ・ 多文化社会としてのアメリカ史の基本を理解する。
- ・ グローバルな視野からアメリカ史を捉える力を養う。
- ・ アメリカ史における歴史叙述の変動や争点を理解する。

【概要】 アメリカ合衆国は、大陸内の諸地域あるいは大西洋や太平洋をへだてた他地域と政治的・経済的・文化的に深く関わりながらその歴史を生成させてきた。アメリカ史Ⅰでは、征服や海外展開をへながら多文化社会となったアメリカ合衆国の歴史を、グローバルかつローカルな視点を含めて概説する。また、アメリカ合衆国の歴史叙述のありかたがどのように変化してきたのかについての理解も深める。

231211 アメリカ史Ⅱ

【到達目標】

- ・ アメリカ史の基本を政治的・経済的・文化的な側面から理解する。
- ・ 複数の観点を組み合わせてアメリカ史を捉える力を養う。
- ・ アメリカ史における歴史叙述の変動や争点を理解する。

【概要】 自由や民主主義の理念と奴隷制や先住民征服との併存がよく示すように、アメリカ合衆国の歴史は、一見すると相反する理念や実践が複雑に絡み合いながら展開してきた。アメリカ史Ⅱでは、政治、経済、ジェンダー、文化など複数の側面を視野に入れてアメリカ史を概説し、それぞれの相互関連性を把握する力を養う。また、アメリカ合衆国の歴史叙

述のありかたがどのように変化してきたのかについての理解も深める。

231212 国際関係法A

【到達目標】

- ・ 国際法の基礎的概念を身に付ける。
- ・ 国際社会の諸問題に対する「法的な」見方・考え方を養う。
- ・ 国家と国際社会の関係について法的側面からの理解を深める。

【概要】 国際法の総論的部分を中心に学ぶ。国際法の総論的部分とは、国際社会において、紛争処理の基礎となる原則ともいえる。国際社会の具体的な事例に触れながら、国際社会の法構造を学んでいくことにする。より具体的には、国際法の基礎概念、法源、国際慣習法、条約の構造、国内法と国際法の関連などについて、国際法判例なども参照しながら講義する。

231213 国際関係法B

【到達目標】

- ・ 国際法概念の実際の側面について理解する。
- ・ 国際協力や国際的な紛争処理の現場で国際法がどのような機能を果たしているか理解する。

【概要】 国際法の総論的部分の理解を踏まえて、国際法の各論部分を学ぶ。現代の国際社会が抱える具体的な国際問題や紛争を理解し、国際法の実際の側面に習熟することを目指す。国際協力、紛争処理、国際的な人権保護などに果たす国際法の構造や機能などについて、国際法判例なども参照しながら講義する。そして、日々流動的な国際社会の様々な局面において、国際法がいかに機能しているのか（あるいはしていないのか）を考察する。

231214 国際機構論

【到達目標】

- ・ 国際連合をはじめとする国際機構の目的および活動についての理解を深める。
- ・ 国際機構の構造や機能における法的側面を理解する。

【概要】 国際連合などの国際機構を法的な観点から検討することによって、さまざまな国際機構の目的、任務、構造、活動などについて理解し、それらの機構が国際社会の組織化、国際紛争の平和的解決、人権や環境の保護に果たす機能について考察する国際組織法の基礎概念、国際機構の法主体性、国際機構の法的地位及び内部法などについて講義する。

231215 国際関係（日米）

【到達目標】

- ・ 国際情勢の中に日米関係を位置づけ、その特質や意義を理解する。

・時代ごとの日米関係の構造的特質について体系的に理解する。

【概要】 本講義では、日米関係を、世界の中の日米関係ととらえ、政治外交面を中心に概観する。特に日米関係の構造的特質を時代ごとに把握し、日米関係のより体系的な理解を目指す。また日米両国における国内政治や世論と日米関係との連関についても考察する。さらに日米関係のみにとどまらず、それを素材にして国際関係全般についても考察しうる力を養う。

231216 国際関係（日朝）

【到達目標】

- ・日米同盟と米韓同盟の基本的力学を理解する。
- ・朝鮮半島における正統性の問題、戦後の日韓関係を理解する。

【概要】 北東アジアの安全保障関係は、日米同盟と米韓同盟という2つの同盟関係から成立している。これらの同盟関係の基本的な力学を理解することを目標としながら、朝鮮半島をめぐるどのような相互作用をみせているのかを考える。朝鮮半島における正統性の問題、戦後の日韓関係、日韓国交正常化と国際政治力学などを取り上げる。

231217 国際関係（日中）

【到達目標】

- ・日中関係をめぐる近現代史に関する基礎的な知識を体系的に習得する。
- ・1972年の日中国交正常化以降の日中関係の展開を概観しつつ、現在の日中関係の政策課題について理解する。

【概要】 国際関係の中における日中関係という視点で、日中関係を理解させることを目標とする。日中関係は、米国、台湾、アジア諸国を巻き込んだ複雑な性格を持っている。満州事変等から始まる歴史問題、戦後のLT貿易・MT貿易、日中国交回復、対外開放政策に伴う日中経済関係、歴史問題・台湾問題によって影響を受ける日中外交関係、近年の多様化する摩擦などを論じる。いずれも、日本、中国、双方の視点から事象に分析を加える。

231218 日本政治思想史

【到達目標】

- ・日本の政治思想の内容と特質についての基礎的な教養を身につける。
- ・日本政治史に対する基本的な知識を習得する。

【概要】 この授業では、基本的には幕末・維新时期から第二次世界大戦後までの時期における、日本の政治にかかわる思想や意識・認識等の歴史的展開を扱うことにする。対象とする時期は必要に応じて、江戸期やその他の時代に及ぶこともある。また考察の対象となる人物や組織もさまざまである。さらに日本の思想を比較考察するために、西洋の政治思想や東洋の政治思想に論が及ぶこともある。日本の近現代の政治（やその根底をなす社会）を、とく

に思想という視座から検討し、そのあり様を考察するものである。

231219 現代韓国論

【到達目標】

- ・解放後の韓国現代史について基礎的知識を習得する。
- ・現代韓国社会における具体的諸問題について理解する。

【概要】 解放後の韓国の政治、経済、社会の歴史はたいへん波乱に満ちていた。現代韓国はこうした歴史を経てかたちづくられてきた。現代韓国社会を理解するにはどうしても歴史的理解が不可欠である。このため韓国現代史の基本を踏まえて、さらには現代韓国社会形成に影響を与えた韓国現代史における具体的な諸問題（例えば、朝鮮戦争、光州事件、民主化運動など）を取り上げていく。

231220 韓国政治・経済論

【到達目標】

- ・韓国の政治と経済に焦点をあてて韓国現代史について基礎的知識を習得する。
- ・政治における民主化、経済における先進国化の諸要因について理解する。

【概要】 解放後の韓国は南北分断のために政治体制においては対北関係の安保問題から民主主義は制限され、長期間、権威主義体制にあった。また経済は朝鮮戦争を経験して世界的にも最貧国の状況にあった。韓国政治経済の課題は政治の民主化と経済の工業化による発展であった。この授業では政治経済それぞれの発展過程に即して時期区分して、それぞれの時期における政治と経済の特徴を整理し、その発展の意義を検討していく。

231221 現代中国論

【到達目標】

- ・現代中国の政治・外交・社会の構造と、その機能を理解する。
- ・現代中国の政治や外交や社会問題が、どのような方向性を持ち、発展していくのかを予測する力を養う。

【概要】 日本の隣国であり、急速な経済、社会の変化を見せる現代中国を理解することを目標とする。中国は、広大な面積と巨大な人口を抱えている。また、2000年代に入ってから、急速な経済成長によって国際的な影響力を高めてきた。共産党の一党体制による政治、貧富の差が大きく、そのなかでの近代化が進む社会、平和発展を理念としながら、現実には強硬路線が目立つ外交、これらの現象の形成過程を理解し、今後の進路を見通す力を養っていく。

231222 香港・台湾論

【到達目標】

- ・香港や台湾が、東アジアにおいていかなる特徴を持った地域であるのかを理解する。
- ・香港・台湾と中国の関係について理解することで中国的世界の広がりを理解する。

【概要】 香港、台湾の現状と、国際政治の中における位置付けを理解させることを目標とする。大陸の中国と異なった政治・経済体制の香港、台湾を分析することによって、中国自体の政治、経済、外交の性格を浮き彫りにすることも出来る。香港の歴史、香港の経済的役割、香港返還、返還後の中国の対香港政策、台湾の歴史、外省人と本省人の矛盾、台湾の民主化、中国との台湾海峡問題などを中心に講義を行う。

231223 現代アメリカ政治論

【到達目標】

- ・現代アメリカの政治制度、イデオロギー、政治的争点などに関して基本的な知識を習得する。
- ・アメリカの政治の基礎知識を習得することで、アメリカ政治を含めた現代政治をより体系的に理解する力を養う。

【概要】 現代アメリカの政治制度、イデオロギー、政治的争点などに関して基本的な知識を習得することを目標とする。大統領制、権力とリーダーシップ、議会制度、選挙制度、政策決定システム、2大政党制、保守・リベラルの2大イデオロギー、連邦制、などについて、歴史的な視点を踏まえつつ解説する。そして、それらの知識をもとに、現代アメリカ政治が抱える諸問題についての総合的な理解を目指す。

231224 現代アメリカの動態

【到達目標】

- ・現代アメリカ社会に関する基礎的な知識を習得する。
- ・現代アメリカ社会で起こっている様々な出来事について構造面、現象面、歴史面から幅広く理解する。
- ・アメリカ社会の基礎知識を習得することにより、アメリカ社会並びに現代社会の問題をより体系的に理解する力を養うことを目指す。

【概要】 現代アメリカ社会に関する基礎的な知識を習得することを目標とする。人種とエスニシティ、貧困問題、教育問題、犯罪問題などの個別の争点について、歴史的な変容過程も踏まえつつ解説を行う。それと同時に、それら個別の問題をコミュニティ統合の基礎理論である、アングロコンフォーミティ、メルティングポット、多文化主義などの概念の文脈と照らし合わせて、多様性を特徴とするアメリカ社会のより体系的な理解を目指す。

231225 南アジア社会特論

【到達目標】

- ・南アジアの風土・人間・社会・文化について基礎知識を身につける。

・日本の社会・文化と比較しながら考える姿勢を身につける。

【概要】 南アジアの諸社会を特徴づける自然風土、人間集団、言語、社会構造、政治、宗教、芸術、日常生活などについて、初学者に基礎的な知識と理解を持たせる。この授業では、とりわけ、南アジアの歴史と文化を特徴づける多様性と統一の問題、その根柢にある宗教的意識の歴史的展開、近現代における宗教（ヒンドゥー教、イスラム教など）とナショナリズムの関係などのトピックからいくつかの事例を取り上げて、南アジア理解の土台を学ばせる。

231226 イスラム社会特論

【到達目標】

- ・イスラム教とイスラム世界について基礎知識を身につける。
- ・日本の社会・文化と比較しながら考える姿勢を身につける。

【概要】 西アジアに始まって多様な異文化との接触の中でアフリカ、中央アジア、南アジア、東南アジア、東アジア、欧米などに広く展開したイスラム世界について、初学者に基礎的な知識と理解を持たせる。この授業では、特にイスラム世界の地域的な多様性、非イスラム世界や資本主義との関わりなどに注意を払いながら、ムスリムの日常生活、宗派、思想・世界観、規範、祝祭、家族と婚姻、芸術、テロリズム、戦争などのトピックから事例を取り上げて講述する。

231227 民族誌特論A

【到達目標】

- ・民族誌の読み方を身につける。
- ・民族誌を通じて人類の存在諸様式を理解する。

【概要】 社会文化人類学の諸分野の知識を発展させ、より着実に包括的な人類学の基礎知識を身につけさせるために、社会文化人類学が蓄積してきた多様な民族誌を重点的に学ばせ、あわせて比較の視点を養う。古典と学史的背景に配慮しながら、今日的な調査報告も紹介し、21世紀の人類の存在様式を人類学的に捉えることの意味と方法を考えさせる。Aは特に民族誌の読み方に重点を置く。

231228 民族誌特論B

【到達目標】

- ・民族誌的知識を身につける。
- ・隣接諸科学との関係のなかで社会文化人類学の理論の変遷を理解する。

【概要】 社会文化人類学の諸分野の知識を発展させ、より着実に包括的な人類学の基礎知識を身につけさせるために、社会文化人類学が蓄積してきた多様な民族誌を重点的に学ばせ、あわせて比較の視点を養う。古典と学史的背景に配慮しながら、今日的な調査報告も紹介し、21世紀の人類の存在様式を人類学的に捉えることの意味と方法を考えさせる。Bは特に学

史的背景の理解に重点を置く。

231229 宗教人類学

【到達目標】

- ・ 宗教人類学の基礎知識を身につける。
- ・ 習得した基礎知識によって個別の問題を考える力を養う。

【概要】 人類社会における宗教に関する民族学・人類学的な理解を深める。人類学・社会学・宗教学などによる宗教研究の歴史を批判的に概観したのち、人間の象徴活動、神話、儀礼、世界観、宇宙論、占い、呪い、治病、死、葬制、祖先崇拜、世界宗教（キリスト教やイスラム教など）への改宗、新興宗教運動など、宗教をめぐる多様なトピックのなかから事例を選んで講述する。

231230 政治人類学

【到達目標】

- ・ 政治人類学の基礎知識を身につける。
- ・ 習得した基礎知識によって個別の問題を考える力を養う。

【概要】 人類社会における政治現象に関する民族学的・人類学的な理解を深める。政治学や法学など他の社会科学が国家の存在を前提にしているのと異なり、政治人類学は人類に知られているあらゆる種類の社会（採集狩猟民社会から現代国家まで）における政治現象を研究対象にしてきた。人類学者による政治研究の歴史を概観したのち、人類のさまざまな社会における政治的行為、社会秩序の維持、部族・王国・共和国など政治体制、暴力と非暴力、戦争、平和など、多様なトピックのなかから事例を選んで講述する。

231231 人種・民族・国民

【到達目標】

- ・ 人種、エスニシティ、ネーションなどの概念と、これらのカテゴリーに関連する現代的な問題について基礎知識を身につける。
- ・ 習得した基礎知識によって個別の問題を考える力を養う。

【概要】 人種・民族・国民という今日の世界で最も大きな政治的問題性をはらむ三種の人間集団のカテゴリー・アイデンティティについて、人類学の視点から、より深く学ばせる。人種、エスニシティ、ネーションなどの基本的な概念をめぐる混乱を批判的に整理したのち、人種差別、国民統合、民族紛争、ジェノサイド、労働者輸入など現代的なトピックスから事例を選びながら講述する。

231232 人権・人道の人類学

【到達目標】

- ・文化相対主義とそのパラドクスを理解する。
- ・人権人道に対する人類学的アプローチを理解する。

【概要】 人類学は、その歴史の中で、種としての人類の単一性の認識に基づく普遍的な人権人道の理想を支持すると同時に、個々の社会の世界観や価値観に優劣はなく、人類の文化的多様性の維持は人類の存続にとって不可欠であると主張してきた。しかしこの普遍主義と相対主義は、現代世界の現実においてしばしば相克し、人類学者は学問的・倫理的に厳しい選択を迫られてきた。この授業では、人類学が人権・人道をどのようにとらえ、どのように関わってきたかを、多様な事例を通じて考察する。

231233 国際政治経済 I

【到達目標】

- ・国際政治経済について基礎的な知識を習得する。
- ・国家間の経済紛争を政治学の視点から学ぶ。

【概要】 政治・経済・技術・戦略などが複雑にからむ国際政治経済学の基本的理解を目指す。まず現代の国際政治経済の概論について論じ、そのうえで二国間の経済紛争を扱う。その際には日米経済紛争や米中経済紛争などを事例として取り上げ、圧力団体をめぐる国内政治力学、議会と行政府の対立、双方の国内法をめぐる摩擦、長期的な国家戦略などを分析し、国際政治の国内的起源に関する理解を深める。

231234 国際政治経済 II

【到達目標】

- ・国際政治経済学を十分に理解し、その方法論を用いて論理的に思考する能力を身につける。
- ・国際政治経済に関する具体的争点（例：農産物輸入問題や知的財産権問題など）のグローバル経済進展時代における特徴についての理解を深める。

【概要】 政治・経済・技術・戦略などが複雑にからむ国際政治経済学の多面的理解を目指す。GATT から WTO にいたる多国間秩序の変遷をまず講義する。そのうえでグローバル経済の進展によって生じた農産物輸入問題や知的財産権問題などの新たな特徴について考察する。また、グローバル化時代における国家と企業の関係や国家間の政策協調などについても射程を広げ、事例研究を通じて国内政治経済に関する抽象的思考能力の獲得を目指す。

231235 比較政治学 I

【到達目標】

- ・比較政治学の基礎的な概念を理解する。

・政治体制の理想型に関する議論を理解する。

【概要】 グローバル化という現象は経済にとどまらず、政治の分野でも進行しており、その一つの結果がリベラル・デモクラシーというモデルの普及である。しかしリベラル・デモクラシーは常に別の思想の挑戦を受けてきており、その挑戦は現在でも続いている。人間社会をより良くするための意思決定はどのような政治体制で可能であるのか。これまでの主な政治思想を把握した上で、受講者が自分なりの意見を持てるようになることが本講義の目的である。

231236 比較政治学Ⅱ

【到達目標】

- ・主権国家体系の成立と変容を理解する。
- ・実際に出現した政治体制の多様性を理解する。
- ・世界の国々の主権国家成立過程と現在の問題との関連について理解する。

【概要】 現在の主権国家体系の元となった西欧国家体系は17世紀に西欧で出現したとされる。それが19世紀にラテンアメリカ諸国が独立するとともにインドや中国が西欧国家体系に組み込まれ、第一次世界大戦後に中欧と東欧諸国、第二次世界大戦後にはアジア・アフリカ諸国が独立することによって世界に広がった。主権国家の成立過程は各地域でどのようなものだったのか。主権国家成立の歴史的経緯を把握した上で、受講者が現在の国際問題について自分なりの意見を持てるようになることが本講義の目的である。

231237 アジア国際関係論Ⅰ

【到達目標】

- ・アジアにおける国際政治の基礎的概念を理解する。
- ・政治学的な視点によって、アジア諸国の関係を分析する能力を身につける。
- ・アジアにおける主要アクターである日中米の外交政策を理解する。

【概要】 アジアにおける国際政治の基礎的概念を理解することを目標とする。アジアの国際政治を理解するために必要な、アジアに関連する国際政治の基礎的概念、すなわち外交、戦争、植民地、ナショナリズム、帝国主義、国際主義、核武装の問題などについて説明する。その上で、日本外交、中国外交の特徴、性格を論じ、戦後東アジア国際関係の現状と全体像を理解させる。また、アジアに大きな影響力を持つアメリカ外交の特徴についても触れる。

231238 アジア国際関係論Ⅱ

【到達目標】

- ・アジアにおける国際関係の歴史と構造を理解する。
- ・政治学的な視点によって、アジア諸国の関係を分析する能力を身につける。

【概要】 戦後アジアの国際関係の歴史を理解させることを目標とする。第2次世界大戦後、

ヨーロッパで確立した戦後冷戦構造が、「熱戦」という形でアジアに飛び火し、アジアの冷戦構造を形作っていったことを説明する。その後、朝鮮戦争、ベトナム戦争を経て、90年代のソ連崩壊、中国脅威論に至る東アジア国際関係を、中国外交、日本外交を中心に論じる。アセアンの設立など、アジアの国際機構の役割と機能などについても触れる。

231239 近現代日本研究（政治・外交）A

【到達目標】

- ・日本の近現代史を、政治・外交・軍事の視座から理解する。
- ・近現代日本の政治家たちの国際秩序認識の有り様と実際政治についての歴史的事実を習得する。
- ・日本内外の体制変動の歴史を理解する。

【概要】 この授業では、日本の近現代史を、主として政治・外交・軍事の視座から考察する。近現代日本とそれをとりまく国際環境との関係に焦点をあて、近現代日本における政治家・外交官・軍人・官僚・知識人・思想家たちの国際秩序認識と国際関係とのかかわり方をとりあげる。またそうした彼らの認識が政策にどのように反映されたのかについても検討する。さらに国際秩序と国内体制との関連性や内外秩序の歴史の変遷とその意味についても考察することにする。

231240 近現代日本研究（政治・外交）B

【到達目標】

- ・戦後日本人の日本近代史認識を理解する。
- ・歴史認識の形成と時代状況の関係性についての理解を深める。
- ・歴史認識を巡る各国間の違いと和解に関する考察力を養う。

【概要】 この授業では、歴史認識と和解の問題を考察する。とくに「太平洋戦争への道」もしくは昭和戦前期の歴史を、戦後の日本人が日本近代の歴史のなかでどのように理解してきたのかを、いくつかの代表的な歴史解釈を題材として取りあげて検討する。さらにそうした歴史認識を、それを生み出した時代との関係から考察し、戦後日本の道程の中に位置づけることを試みる。そうした時代状況は内外にわたるため、戦後日本を取り巻く国際関係のあり方についても言及し、近年みられる諸外国との歴史認識を巡る軋轢と和解の問題へと考察を深めることにする。

231241 朝鮮研究 I

【到達目標】

- ・朝鮮半島の社会、文化、政治、経済、国際関係などに関して歴史的アプローチで理解する。
- ・朝鮮半島の社会、文化、政治、経済、国際関係に関わる具体的諸問題を取り上げてそれを歴史的に理解する。

【概要】 地域研究としての朝鮮研究は、朝鮮半島（こんにちの朝鮮民主主義人民共和国と

大韓民国)の歴史、社会、文化、政治、経済、国際関係の諸問題をあらゆる学問的アプローチを動員して現地に密着した視点から深く理解しようとするものである。朝鮮研究Ⅰでは具体的諸問題、例えば韓国における「反日感情」という問題を取り上げ、それがどのようにして形成され、維持されているのか、主として歴史的アプローチからの論文やその他の文献、映像資料を利用して、深く理解できるようにしていく。

231242 朝鮮研究Ⅱ

【到達目標】

- ・朝鮮半島の社会、文化、政治、経済、国際関係などの現代的課題を総合的に理解する。
- ・朝鮮半島の社会、文化、政治、経済、国際関係に関わる具体的諸問題について社会科学・人文科学をはじめさまざまなアプローチから取り上げ、多角的に理解する。

【概要】 地域研究としての朝鮮研究は、朝鮮半島（こんにちの朝鮮民主主義人民共和国と大韓民国）の歴史、社会、文化、政治、経済、国際関係の諸問題をあらゆる学問的アプローチを動員して現地に密着した視点から深く理解しようとするものである。朝鮮研究Ⅱでは、例えば南北分断の問題を取り上げ、冷戦前後の南北関係の変化を国際政治学の観点から考えたり、南北社会の異質化を経済学や社会学の観点から考えたりして、深く理解できるようにしていく。

231243 中国研究Ⅰ

【到達目標】

- ・近現代の日本社会が中国をどう見てきたかを理解する。
- ・東アジア世界の変動のなかで中国を考える姿勢を身につける。

【概要】 地域研究として中国研究をする際の、中国を見る眼について注意を喚起することによって、中国研究の方法を習得することをめざす。前近代以来の歴史的背景をふまえて東アジア世界のなかに中国を位置づけ、そのなかで近現代の日本が中国をどのように見てきたかについて、具体的な資料や研究成果を提示する。これを学生自身に閲読、考察させることによって、改革開放政策やグローバリゼーションのなかで大きな構造変動に直面している中国および東アジアに対する眼を養う。

231244 中国研究Ⅱ

【到達目標】

- ・中国に関する多様な研究の成果を理解する。
- ・自分自身の問題意識に即して、自分なりの中国像を獲得する。

【概要】 受講者が自らの問題意識に即して、自分なりの中国像を獲得することをめざす。中国の多様な側面を、歴史や思想、政治、経済、社会、文化などについて、資料や研究成果をまじえつつ具体的に紹介しながら、それらを踏まえてどのような総合的な中国理解が可能

かを提示する。紹介された具体的事例を理解することで中国の諸側面についての個別的な理解を深めると同時に、講義を通じて個別の事例がどのように総合されるかに実際に触れるなかで、自分なりの総合的理解への導きとする。

231245 アメリカ研究（政治・外交）Ⅰ

【到達目標】

- ・植民地時代から第 2 次大戦までのアメリカ外交の歴史を、アメリカの政治的伝統や時代ごとの国際環境と連関付けながら理解する。
- ・植民地時代から第 2 次大戦までのアメリカ外交史の基礎知識を習得することにより、現代アメリカ外交を中心とする国際政治をより体系的に理解する力を養う。

【概要】 アメリカの政治・外交の特質について、歴史、社会、経済、思想、国際関係など、さまざまな角度から論じ、総合的・体系的に理解することを目標とする。特に、歴史的な視点、アメリカにおける国内政治と外交の連関、国際社会におけるアメリカの位置づけ、などを重視し、個別の事象の表面的な理解にとどまらない、立体的なアメリカ像の構築を目指す。本講義では、アメリカ政治・外交の成り立ちからその展開過程を中心に考察する。

231246 アメリカ研究（政治・外交）Ⅱ

【到達目標】

- ・冷戦史を軸に、第二次大戦以降現代までのアメリカ外交史を、アメリカの歴史的伝統や国際関係と連関させながら理解する。
- ・戦後アメリカ外交史の基礎知識を習得することにより、現代アメリカ外交を中心とする国際政治をより体系的に理解する力を養う。

【概要】 アメリカの政治・外交の特質について、歴史、社会、経済、思想、国際関係など、さまざまな角度から論じ、総合的・体系的に理解することを目標とする。特に、歴史的な視点、アメリカにおける国内政治と外交の連関、国際社会におけるアメリカの位置づけ、などを重視し、個別の事象の表面的な理解にとどまらない、立体的なアメリカ像の構築を目指す。本講義では、「アメリカ研究(政治・外交)Ⅰ」を踏まえ、アメリカが覇権国となる過程での政治・外交の変容やアメリカ外交の現代的意義を中心に考察する。

231247 アメリカ研究（社会史）Ⅰ

【到達目標】

- ・ジェンダーの概念を理解する。
- ・ジェンダーの概念の歴史叙述への適用のありかたを理解する。
- ・南北戦争までのアメリカ史におけるジェンダーに基づく権力の振り分けの様態と変化を理解する。

【概要】 植民地時代から 19 世紀中葉までのアメリカの歴史を、ジェンダーという概念を

基軸としながら概説する。アメリカ史で通常採りあげられる主要な出来事の中で、男女の差異はどのような意味をもったのか。女性たちはどのような役割を果たしていたのか。また、それらの出来事はジェンダーの構築をどのように変えたのだろうか。ジェンダーの視点から歴史をとらえることで、日常的、私的關係性の中にも権力関係が存在することに気づかせるとともに、日常の細部に歴史を見いだす目を養いたい。

231248 アメリカ研究（社会史）Ⅱ

【到達目標】

- ・ジェンダーの概念を理解する。
- ・ジェンダーの概念の歴史叙述への適用のありかたを理解する。
- ・南北戦争から現代までのアメリカ史におけるジェンダーに基づく権力の様態と変化を理解する。

【概要】 19世紀中葉から現代までのアメリカの歴史を、ジェンダーという概念を基軸としながら概説する。アメリカ史で通常採りあげられる主要な出来事の中で、男女の差異はどのような意味をもったのか。女性たちはどのような役割を果たしていたのか。また、それらの出来事はジェンダーの構築をどのように変えたのだろうか。ジェンダーの視点から歴史をとらえることで、日常的、私的關係性の中にも権力関係が存在することに気づかせるとともに、日常の細部に歴史を見いだす目を養いたい。

231249 日米比較研究Ⅰ

【到達目標】

- ・19世紀半ばから第二次世界大戦までの日米の社会・文化について、比較の視点から理解する。
- ・日米の社会・文化を、歴史的な変化をふまえて動的に捉える視座を身につける。
- ・日米の社会・文化を、グローバルな人・モノ・情報の移動と関連づけて多面的に理解する。

【概要】 米国の国土が太平洋岸にまで拡張し日本が幕末期を迎える19世紀半ばから、日米の両国が開戦する20世紀半ばまでの期間を中心に、日米の社会・文化を比較史的に概説する。産業革命と工業化・都市化、列強の帝国主義的な世界進出と植民地化、大規模な国内移動と国際移動といった文脈をふまえて、グローバルな視点から日米の社会・文化を捉える力を培い、文化的な混交やアメリカ化の多面的なプロセスを学ぶ。

231250 日米比較研究Ⅱ

【到達目標】

- ・第二次世界大戦後から現在までの日米の社会・文化について、比較の視点から理解する。
- ・日米の社会・文化を、歴史的な変化をふまえて動的に捉える視座を身につける。
- ・日米の社会・文化を、グローバルな人・モノ・情報の移動と関連づけて多面的に理解する。

【概要】 第二次世界大戦後から現在までの期間を中心に、日米の社会・文化を比較史的に概説する。戦後の冷戦体制下から 20 世紀末の冷戦体制崩壊後にかけて、日米は政治的・経済的・文化的に緊密に結びついた関係を構築してきた。日米双方の社会的・地域的な重層性に留意する問題意識を養いながら、占領から朝鮮戦争、ベトナム戦争、貿易摩擦をへて 21 世紀を迎えた日米の社会・文化について、両者の多面的な交流・接触・交渉・衝突の諸相を学ぶ。

231251 周縁世界とグローバル化 I

【到達目標】

- ・植民地化以前・植民地支配期の周縁世界についての基礎知識を身につける。
- ・習得した基礎知識によって個別の問題を考える力を養う。

【概要】 周縁世界（特に東南アジア、オセアニア、南アジア、西アジア、中央アジア、アフリカ）と先進世界との関わりを長期的な観点から理解させる。主に植民地化以前および植民地支配期を中心に、周縁世界の伝統的な部族社会、首長国、王国の生活様式、社会構造、政治システム、生産様式、宗教を概観した後、イスラム世界やキリスト教世界からの交易・布教の働きかけ、奴隷交易、植民地化、現地社会からの対抗運動、資本主義の浸透など、多様なトピックから事例を選びながら講述する。

231252 周縁世界とグローバル化 II

【到達目標】

- ・ポストコロニアル国家およびその元宗主国において生じている現代的問題について理解する。
- ・周辺世界を捉える視野を広げ、先進国中心の観点を脱し多様な観点を獲得する。

【概要】 周縁世界（特に東南アジア、オセアニア、南アジア、西アジア、中央アジア、アフリカ）と先進世界との関わりを長期的な観点から理解させる。主に第二次世界大戦後の植民地独立以降の時代を中心に、植民地の独立運動、ポストコロニアル国家の形成と失敗、国家の暴力、民族紛争、ジェノサイド、移民と難民、開発と貧困、新興宗教やカルト、疎外と格差、HIV/AIDS、人身売買など、多様な現代的トピックから事例を選びながら、可能な限り現地からの視点で講述する。

231253 東アジアの文化と社会

【到達目標】

- ・世界観、親族集団、地域共同体、民衆の戦争記憶などに関する研究視点と知識を獲得する。
- ・上記視点の角度から東アジア諸社会や文化の類似点と相違点を理解する。

【概要】 文化人類学的視点と専門研究を援用しながら、東アジアにおける文化交流の様態や、社会と文化の相似性と相異性について考察する。中国、朝鮮、日本などの国や地域を「漢

字文化圏」内として捉えながら、それぞれの文化の独自性と多元性も視野に入れ、儒教などの世界観、親族集団、地域共同体、戦争記憶などの角度からこの地域の文化と社会を理解する。

231254 民族と世界

【到達目標】

- ・人類の下位集団である民族を、歴史、政治、植民地、グローバリゼーション、そして、世界観、象徴、個人の心理など様々な角度から理解する。
- ・人間の社会集団の生成性、流動性、及びその存在の一貫性、個人との関係性などを考える力を養う。

【概要】 文化人類学における民族やエスニシティ、エスニックアイデンティティなどに関する視点や研究事例を紹介し、現代における「民族」問題を考える。民族とエスニシティの概念の転換、エスニックバウンダリー、民族共同体と象徴、移動・越境者とトランスナショナルリズム、在日、中国朝鮮族などのテーマを取り上げる予定である。

■基礎演習

231301 基礎演習（国際関係）

【到達目標】

- ・スタディ・スキルの基礎を理解し、実践できるようにする。
- ・スチューデント・スキルを身につける。

【概要】 新入生が無理なく大学での学習に臨めるよう、大学での学習に必要なスタディ・スキル（レポート・小論文の書き方、口頭発表の仕方、図書館やインターネットを使った文献の探し方など）の教育、スチューデント・スキル（大学生に求められる一般常識や態度など）の教育を重点的に行うとともに、専攻を構成する複数のディシプリンのひとつについて初歩的な理解が得られるようにする。

231302 2年次演習（国際関係）I

【到達目標】

- ・1年次に習得したスタディ・スキル、スチューデント・スキルを確実なものにする。
- ・専攻を構成する複数のディシプリンのひとつについて、その基礎を理解する。

【概要】 1年次の演習に引き続きスタディ・スキル、スチューデント・スキルを習得させ、専攻を構成する複数のディシプリンのひとつについてその基礎を理解し、学生各自が自分の個人的な問題意識を他人にも理解できる言葉で表現し議論ができるよう訓練する。隣接する地域やディシプリンについても視野を広げるように指導することで、3年次における専門的研究への橋渡しを行う。

231303 2年次演習（国際関係）Ⅱ

【到達目標】

- ・1年次に習得したスタディ・スキル、スチューデント・スキルを確実なものにする。
- ・専攻を構成する複数のディシプリンのひとつについて、その基礎を理解する。
- ・自身の問題意識に基づいて、ディシプリンの基礎をふまえた小論文を書くことができる。

【概要】 スチューデントスキル、スタディスキルを習得させ、学生各自が自分の個人的な問題意識を他人にも理解できる言葉で表現し議論ができるよう訓練する。3年次以降の専門研究において、学生がどのような専門分野に進むか自ら選択できるよう各自の問題意識を高め、その第一歩として年度末の小論文作成を指導する。

■発展演習

231401 社会調査実習Ⅰ

【到達目標】

- ・専攻領域に即した社会調査の意義を理解する。
- ・社会調査を計画立案する力をつける。
- ・社会調査の計画立案および実施の実際を体得する。

【概要】 社会学、経済学、国際関係という各々の専攻領域において社会調査を行う意義、各専攻領域で採用される調査方法の概要などについて、実習形式で学ぶ。それぞれの専攻領域における調査研究の方法論、調査報告書などの先行研究を読み解き、調査計画の立案、調査票の設計などをめぐる考え方を確認した上で、実際に調査を計画立案し、調査票等を設計する。

231402 社会調査実習Ⅱ

【到達目標】

- ・（質的調査法について）聴き取り、観察、文書資料の解読などの実際を体得する。
- ・（量的調査法について）データ収集、集計、分析などの実際を体得する。
- ・調査結果を分析し、報告書を作成する力をつける。

【概要】 社会学、経済学、国際関係という各々の専攻領域における調査研究の理念、方法などの理解に基づき社会調査実習Ⅰで立案された調査計画、設計された調査票をもとに調査を実施し、データ整理・分析を行う。採用する調査方法（量的調査法、質的調査法など）の特徴を理解し、調査対象の選定、調査の実施、コード化と集計、結果の解釈、報告書の作成などの実際について実習形式で学ぶ。自ら質問紙調査、聞き取り調査などを経験することで、社会調査の方法を卒業論文研究に用いるための準備とする。

231403 3年次演習（国際関係）Ⅰ

【到達目標】

- ・ 専門研究に必要な方法を習得する。
- ・ それを具体的なテーマに即して実践することで、学術研究の基礎的能力を身につける。
- ・ その成果をディシプリンの方法や用語を使って説明することができる。

【概要】 卒業論文を作成する前段階として、各自の専門研究を深めることを目的とする。指導教員によって担当される応用講義の科目を並行して受講し、専門分野についての知識を深めると同時に、演習では教員の指導を受けながら、方法論をマスターし、次年度に備えることがこの演習の主要な課題である。クラスによっては共通のテーマを設定して共同作業を行う場合もある。

231404 3年次演習（国際関係）Ⅱ

【到達目標】

- ・ 専門研究に必要な方法を習得する。
- ・ それを具体的なテーマに即して実践することで、学術研究の基礎的能力を身につける。
- ・ その成果をディシプリンの方法や用語を使って説明することができる。
- ・ 専門的な考察を経た短い論文を作成することができる。

【概要】 卒業論文を作成する前段階として、各自の専門研究をさらに深めることを目的とする。演習では先行研究の調査を行いつつ研究テーマを絞り込み、プレゼンテーションを通じて相互に議論をし、客観的に自分のテーマを見つめていく作業を行う。卒業論文の練習としてゼミ論文を作成することをこの演習の最終目的とする。

231405 4年次演習（国際関係）Ⅰ

【到達目標】

- ・ 自分自身の問題意識に即したテーマを見出す。
- ・ そのテーマに即して、3年次までに習得した方法を用いて、研究する能力を身につける。
- ・ 研究の成果を学術的な手続きを踏まえて報告し、討論できる能力を身につける。

【概要】 入学以来、3年次までの演習で習得した発表と討論の力を生かし、卒業論文の構成や準備状況を口頭で発表する。これらの報告や討論は、テーマに関する専門知識の交換の場となると同時に、自らの卒業論文作成の過程を客観的に見直し、専門分野への知的好奇心を深化させる機会となるだろう。あわせて卒論の目次立てを完成することがこの授業の目標となる。論文作成のためのガイドラインを確認し、論文作成準備を進めていく。

231406 4年次演習（国際関係）Ⅱ

【到達目標】

- ・ 自分自身の問題意識に即したテーマを見出す。

- ・そのテーマに即して、3年次までに習得した方法を用いて、研究する能力を身につける。
- ・研究の成果を学術的な手続きを踏まえて報告し、討論できる能力を身につける。
- ・専門的な学術論文が作成できる。

【概要】 入学以来、3年次までの演習で習得した発表と討論の力を生かし、卒業論文の構成や準備状況を口頭で発表する。これらの報告や討論は、テーマに関する専門知識の交換になると同時に、自らの卒業論文作成の過程を客観的に見直し、専門分野への知的好奇心を深化させる機会となるだろう。学術論文作成に必要な技術を確認するとともに、論文作成の過程で考察した内容について、学術的な議論をする訓練をおこなう。

経済学専攻

■入門

232001 ミクロ経済学入門

【到達目標】

- ・経済学的思考法を身につける。
- ・ミクロ経済学の基礎的な概念と理論を正確に理解する。
- ・市場メカニズムの機能と限界を理解する。
- ・概念や理論と現実の経済の動きを比較対照する姿勢を身につける。
- ・概念や理論を現実に応用しようとする姿勢を身につけ、経済に対する問題意識を持つ。

【概要】 経済全体の動きを大きく捉えようとするマクロ経済学に対して、ミクロ経済学は、消費者や企業による消費や生産という身近な経済活動を出発点として、希少な資源の有効活用という問題に対して市場がどのような働きをしているのかを分析するものである。「ミクロ経済学入門」では、経済学を専門としない学生も対象として、経済学的な考え方に慣れ親しむことから始める。その上で、基本的なミクロ経済学の知識を身に付け、現実の経済についての理解を深めることができるようにしてゆきたい。

232002 マクロ経済学入門

【到達目標】

- ・複雑な現象を「抽象化」して理解する方法に慣れていく。
- ・身近な経済現象をシステムとして捉えることができるようになる。
- ・マクロ経済学の基本的な用語、概念、理論を習得する。
- ・国境を越えて連関する日米の経済問題を理解する。

【概要】 経済がグローバル化した今日では、一国で発生したマクロ経済問題が、瞬時に他国に影響を及ぼすことになる。そうしたマクロショックは金融システムや景気や雇用を通じて私たちの生活に影響を及ぼす。この授業の主軸は、マクロ経済学の基礎的な概念と理論を学ぶことであるが、金融政策と財政政策の観点から日本経済が直面する諸問題と課題を理解することをも目指す。

232003 初級ミクロ経済学

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の諸理論をグラフを用いて説明ができるようにする。
- ・ミクロ経済学の基礎を理解し、計算問題が出来るようにする。

【概要】 「初級ミクロ経済学」では、「ミクロ経済学入門」からの発展として、まず、消費者行動における無差別曲線分析、生産者行動における生産関数や費用関数の分析を詳しく説

明し、完全競争市場の特徴を考察する。つぎに、環境問題など、価格メカニズムがうまく働かない「市場の失敗」のケースを紹介し、これらの問題への対応としての市場への（政府）介入の意義と限界を検討する。最後に、現実の経済において多く見られる不完全競争の分析を概観する。

232004 初級マクロ経済学

【到達目標】

・ケインズ理論の基礎となる、初級レベルのマクロ経済学をマスターする。

【概要】 入門編ではマクロ経済学の概念に親しみながら、現実を展開する日本の財政、金融、国際収支などの諸問題を理解することを目指した。これは専攻を越えてひとりの大人として経済社会で生きて行くための基礎知識である。次の初級編では、ケインズの一般均衡理論から始まって、少し複雑な理論構築のおもしろさを理解することに挑戦する。具体的には、貨幣の需給と利子率、IS-LM 分析と財政金融政策、国際マクロ経済分析、経済成長理論などを扱う。

232005 経営学入門

【到達目標】

・経営学分野の全般的な基礎知識を獲得する。
・事業計画書の作成を行うことを通じて、基礎的知識を活用し、より実用的な能力を身につける。

【概要】 この授業は、「経営学とは何か」を理解することを目的としている。まず、経営学の研究対象や学問領域における位置づけについて概説し、企業の特徴や株式会社の仕組みなどについて学ぶ。その後、様々な経営学の理論について、古典理論、新古典理論、近代理論、さらには、今日的経営課題に対応する理論など、歴史的変遷を概観し、個々の理論の特徴およびその後の研究成果への影響について検討する。

■基礎講義

232101 統計学

【到達目標】

・統計学の基礎をマスターし、統計処理の基本を身につける。

【概要】 近年、統計的分析はあらゆる学問分野で盛んに行われている。この講義では、入門レベルの統計学を、毎回練習問題を解きながら、分かりやすく解説していく。具体的には、①変数の区別、②度数分布、③中心傾向の測度、④散らばりの測度、⑤ローレンツ曲線やジニ係数などのその他の測度などを取りあげる。そして、社会科学分野の統計データを自分自身で分析したり、解説するために必要な基礎的統計学についての知識を習得することが目標となる。

232102 経済史

【到達目標】

- ・ 18 世紀からのイギリスを中心とした西ヨーロッパにおける市場経済の成立の検討を通じて市場経済の特徴を理解する。
- ・ 19 世紀末からのアメリカにおける市場経済の発展の検討を通じて現代経済の原型を理解する。
- ・ 生産構造の変化とともに消費構造が変化したことを理解する。

【概要】 現代経済の基盤である市場経済の成立と変容を、世界市場との関連を意識しながら概観する。講義内容は、1. イギリスを中心とした西ヨーロッパにおける市場経済の成立プロセスを、工業資本と商業資本双方の役割に焦点を当て解説する。 2. 現代経済の原型ともいえるアメリカにおける市場経済の発展を考察する。 3. 開港期から高度成長に至る日本経済の発展を、後発国の市場経済化の問題として、検討する、の3つの部分に別れる。いずれのケースでも、生産分野での変化が消費者の生活をどのように変化させたのかという点にも注意してゆく。

232103 経済学史

【到達目標】

- ・ 経済理論の発展のプロセスを理解する。
- ・ それぞれの経済学者の人間観・社会観と経済理論の関連を理解する。

【概要】 経済学は、経済現象を普遍的に説明しようとする時代を超えた側面と、その時々々の経済的課題や社会問題を解決しようとする時代に規定された側面とを併せ持っている。したがって、経済学の歴史を学ぶことによって、現代理論がより良く理解できるようになるだけでなく、現代に通じる問題に対する過去の経済学者たちの取り組みから多くの示唆を得ることが可能である。この観点から、代表的な経済学者を中心に経済理論の歴史的展開とともに、彼らの問題意識や人間観・社会観も講義することにした。

232104 経済数学

【到達目標】

- ・ 経済学で用いる基本的な数学を理解する。
- ・ 経済学を数学を使って理解するために必要な計算能力を身につける。

【概要】 経済学を皮相的にではなく、本格的に理解し、その本質を見極めようとするならば、数学の基礎をしっかりと固めて、ミクロ・マクロ経済学を数学的に理解することが必要である。そのため、この科目では、経済学を理解するために必要となる基本的な数学の手法を身につけることを目的とする。経済学の分析の面白さとその論理性を理解するための基礎として、この科目は開講される。本授業のスケジュールに従って数学的手法を身につければ、

たいていの経済学の論文は読みこなせるようになる。

232105 中級ミクロ経済学

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の諸理論を数学的な表現を使うことによって理解できるようにする。
- ・現実社会における基本的な経済現象をミクロ経済学の考え方によって分析・理解ができるようにする。
- ・ミクロ経済学の基礎理論を十分に修得することにより、応用経済学への発展が容易にできるようにその環境を整えること。

【概要】 ミクロ経済学の初級程度の知識を持つ学生を対象に、ミクロ経済学理論を数学的にとらえ直し、より多面的に、より深くミクロ経済学を理解しようとすることを基本的な目的とする。この科目でいう「ミクロ経済学」とは、「マクロ経済学」と双璧をなす「理論経済学」であり、経済学を専攻する学生は必ず知っていなくてはならない基礎理論のことである。この基礎理論を習得することにより、経済学の方法論に基づいた社会問題の分析能力を養成する。オーソドックスなミクロ経済学の構成にしたがって講義は展開される。

232106 中級マクロ経済学

【到達目標】

- ・中級レベルのマクロ経済学の理論（数学モデルを中心とした展開）をマスターする。

【概要】 「初級マクロ経済学」を学んだ学生を対象に、中級レベルのマクロ経済学について、以下の順で講義をすすめる。①初級レベルのマクロ経済学の復習、②国民経済計算の考え方と方法、③GDPの決定理論、④IS-LM分析(生産物市場の均衡とIS曲線、貨幣市場の均衡とLM曲線)、⑤AD-AS分析(総需要・総供給モデル)、⑥経済成長理論、⑦国際マクロ経済、⑧環境経済学、⑨日本経済の分析、⑩経済学の諸問題。

232107 公共経済学

【到達目標】

- ・完全競争市場の理論だけでは分析できない現実の問題へのアプローチを可能にする。
- ・市場経済に対する公的介入の意義と限界について理解する。
- ・社会システム全体の分析・評価手法を習得する。

【概要】 経済学の基礎理論に立脚して、経済政策の分野に適用するために必要な経済学の応用理論を習得することを目的とする。経済政策の分野で必要とされる理論の1つに公共経済学があり、これは実際に行われている多様な経済政策の分析を行うにあたって必須の基礎的な経済理論である。実際の経済問題への適用はこの科目では行われませんが、実際の経済問題の適用を考えるとときに公共経済学の知識は不可欠である。この科目では、さまざまな政策の評価を行うための規範的分析について述べる。

232108 経済政策

【到達目標】

- ・交通問題・交通政策を題材として、より現実的な社会問題を経済学的に理解できるようにする。
- ・交通問題・交通政策に限らず、広く社会問題を評価・分析する能力を養成する。

【概要】 これまでに習得した経済学（特にミクロ経済学）の基礎理論、ならびに政策分析の手法として有効な公共経済学の理論をもとに、それらを現実の経済問題に適用することを目的とする。経済政策の分野で必要とされる理論の1つに公共経済学があり、その理論に基づいて実際の経済問題を分析するが、ここでは最も身近な問題の1つである、交通問題を取り扱う交通経済学について取り上げる。交通経済学では、交通問題としていつも議論の対象となる運賃・料金、投資、補助、規制の問題などについて分析が行われる。

232109 経営管理論

【到達目標】

- ・企業活動の中心となるヒト・モノ・カネの管理の仕方を身につける
- ・経営資源の管理を通じて企業経営の基本的な考え方を習得する。

【概要】 企業経営においてはヒト・モノ・カネのマネジメント（管理）が重要になる。ヒトについては労務管理が、モノ・カネについては財務管理がその主流となる。この授業においては、労務管理関連では人材開発、雇用、報酬などの観点が、財務管理関連の分野では資金計画、キャッシュフロー管理などの観点が、生産管理といったモノのマネジメントの観点も含めて論じられる。さらにそれらを統合した企業内の組織ネットワーク管理や企業統治についても言及したい。

232110 経営組織論

【到達目標】

- ・企業の本質を見極めることができるようにする。
- ・組織というもののあり方がいかに企業の持続可能な発展に重要であるかを認識できるようにする。
- ・「組織の経済学」との関連性を理解できるようにする。

【概要】 企業が持続可能な発展を遂げていくためには、その組織を見直し絶えず組織に関するイノベーションを推進していかなくてはならない。この授業においては、企業とは何か、企業はなぜ存在するのかという基本的な問いかけから、組織への考察に踏み込んでいく。組織のあり方、組織の管理の方法、組織の変容などを考察しながら、企業の発展のために必要な組織のあり方を考えていきたい。経済学専攻に設置される科目でもあるため、R. コースや0. ウイリアムソンなどを始祖とする「組織の経済学」についても取り扱う予定である。

■応用講義

232201 国際経済学

【到達目標】

- ・国際金融の理論、制度、歴史について理解する。
- ・金融危機と実態経済との関連を理解する。金融危機とマクロ経済政策との関連を理解する。
- ・国際経済の現状を把握する上で不可欠な統計指標を読み解く。
- ・国際経済学を学ぶことを通じて、日本経済について考えることが出来る。

【概要】 国境を越えるモノ、カネ、ヒト。私たちはいやおうなく進行する市場経済化とグローバル化のただ中にいる。この授業では、国際金融の基本的な概念、理論、制度を学びながら、戦後の国際金融史上に残る巨大なマクロ経済ショックの事例を分析し、現代的な経済危機への対策を考える。また、多様化するデリバティブ、巨大化するファンド、複雑化する証券化商品、会計基準の国際標準化、IMFの役割など、現代の国際金融を大きく揺さぶるアクターの動向に注目する。

232202 開発経済学

【到達目標】

- ・Development（開発/発展）とは何か。その定義をめぐって展開された議論を習得し、その意義を理解する。
- ・開発/発展の現状を客観的に把握する指標を身につける。
- ・人間や企業の行動（ミクロ）及び一国経済の動き（マクロ）を読み解くための主要な理論を習得する。
- ・ジェンダーの視点を統合した分析を習得する。

【概要】 開発経済学は、人々の生活や人生に多大な影響を及ぼす貧困や経済格差の問題を扱い、その原因を一国及び地球規模で分析し、より良い経済発展の方法を探るための学問である。「開発経済学 I」では、貧困や格差の計測手法と開発理論の発展過程を学ぶ。適宜事例研究をもちこみ、実態の紹介も行う。また、ガバナンス（行政機構の規律と能力）の欠落、民主主義と法の支配、ジェンダー（社会的文化的性別）、環境破壊、紛争といった今日の問題との関連を検討する。

232203 計量経済学

【到達目標】

- ・計量経済学の基礎となる推測統計学をマスターし、収集したデータに基づいて、母平均や母比率の区間推定、および仮説検定等ができるようになる。

【概要】 社会科学のための統計解析ソフトウェア「TSP」を用いて、統計分析を実践する方法を講義する。中心的傾向の測度、散らばりの測度から出発し、確率変数と確率分布、平均や比率などの推定とその検定、さまざまな種類の相関係数とその検定、回帰分析まで取り上げる。卒業論文の作成に役立つよう、毎回さまざまなデータを使用した分析を行う。なお、統計学、コンピュータを全く知らないものとして講義を始める。毎回、情報処理教室で講義を行う。

232204 環境経済学

【到達目標】

- ・環境問題を経済学の視点から理解する。
- ・環境問題、資源制約などの知識を得る。

【概要】 環境問題をミクロ経済学の枠組みにあてはめることにより、その問題の所在を理解し、解決法について考えることを目的とする。環境問題が市場の失敗の結果、生じるものであることを理解し、社会的余剰の最大化を達成するためには環境問題を市場の中に内部化する必要があることを示す。そのための政策的手法として、規制的手法、経済的手法についてそれぞれ学ぶ。また具体的に都市型の大気汚染の問題と地球環境問題について論じ、この問題に対して内外で実際に導入されている諸政策について学ぶ。

232205 労働経済学

【到達目標】

- ・労働経済学に関する基礎的な理論モデルを理解する。
- ・1990年代以降に発展した多様な新しい働き方を理解する。
- ・労働経済学の視点から、現実の労働問題を読み解き、評価できるようになる。

【概要】 この講義は、「働くこと」とは何かに焦点を当て、その諸側面を家計・企業・一国の経済現象の中で包括的に捉えることを目的とする。基本的な理論枠組みを理解し検証するためには、それにふさわしい新しい資料や統計手法が求められる。そのため講義ではできるだけ、現実の社会に見られる労働の具体的な諸現象を題材にして、新しい資料や統計手法の紹介も含めて労働経済学のトピックスを取り上げていく。特に女性労働に焦点をあて、女性が労働者として直面する現状と課題を理論と実証研究の両面から講義する。

232206 金融論

【到達目標】

- ・政府のマクロ経済政策策定と実践に関する役割の理解。
- ・通貨、金融、財政政策の役割、補完性の理解。
- ・銀行、金融機関の機能の理解。

- ・金融機関、および経済全体に関するリスクマネジメントの理解。
- ・安定した金融システムが経済成長に貢献するメカニズムの理解。
- ・安定した金融システムを保つ中央銀行の政策の理解。
- ・金融危機のメカニズムの理解。・バブル、不良債権とデフレーションバブル崩壊の歴史を理解する。
- ・金融工学の発展とリスクテイキングの変化の理解。

【概要】 この授業では、(1) 政府の役割と財政政策、通貨と日本銀行の金融政策など、金融の基礎から出発して、金融システム、金融機関行動と金融政策、市場メカニズムと金利形成、国際金融取引まで幅広く応用分野をカバーして、金融を理解する前提となる理論的なフレームワークを提供するとともに、(2) 現代の金融問題の中で、金融システム安定に向けたプルーデンス政策、金融システムにおけるイノベーションについて、実践的な検討を行うことを目指している。

232207 財政学

【到達目標】

- ・財政理論の基本を学ぶことにより、日本の財政が抱える諸課題を理解する。
- ・日本経済の発展において公共支出、租税制度、政府間財政関係などが果たしてきた役割を学ぶ一方で、今日の財政運営で残された課題を明らかにし、これからの財政のあり方について考える力を養う。
- ・日本の財政が抱える諸課題は、先進諸国のみならずアジア諸国などとも多くの共通点が見られることを理解する。

【概要】 財政学は、租税や公債などによる財源調達（どのような方法で、何を基準に、何の名目で）をもとに、国民生活をささえる多岐にわたる政府の経済活動と、そのためにそれらをどのように効果的に用いるかについてを考察する学問である。講義では、公共投資や社会保障などの政府支出の経済的役割とその効果、租税を中心とする資金調達のあり方、さらには地方財政や国と地方の財政関係の役割などについて経済学をベースとした財政の分析を試みる。

232208 日本経済論

【到達目標】

- ・戦後の日本経済の発展において、地域経済や地域政策の果たしてきた役割について理解する。
- ・効率的な地域政策を進めるにあたって、国および地方公共団体はいかなる形で公共サービスを提供し、政策的コミットメントをすべきなのかを理解する。
- ・地方財政および財政ガバナンスの学習を通して、地方公共団体の役割と「政府の失敗」の課題について理解する。

【概要】 日本経済のグローバル化が進む中で、地域経済や地方公共団体が行う地域政策や財政政策の果たすべき課題や役割に関して経済学的視点から考察を行う。まず、戦後の日本経済の発展において、地域経済や地域政策の果たしてきた役割について学習を行った後、地域政策のあり方を経済学的視点から考える。そこでは、都市規模の決定に関する経済理論や、地域独占、外部性、地方公共財等の「市場の失敗」理論などを学ぶことにより、開かれた経済活動における地域経済と経済政策のあり方を考える。続いて、こうした地域政策を効率的に進めるにあたって、国および地方公共団体（地方政府）はいかなる形で公共サービスの提供や政策的コミットメントをすべきなのか、地方財政および財政ガバナンスの学習を通して地方公共団体の役割や「政府の失敗」の課題を考える。

232209 ゲームの理論

【到達目標】

- ・ゲーム理論とは何か、概略を理解する。
- ・戦略形ゲームについて、解法を習得する。①支配される戦略の連続消去による支配戦略均衡、②最適反応戦略による純粋戦略ナッシュ均衡 ③混合戦略ナッシュ均衡 ④連続形ゲームのナッシュ均衡・展開形ゲームについて、後ろ向き帰納法による部分ゲーム完全均衡の解法を習得する。
- ・無限繰り返しゲームの長期的関係を理解する。
- ・不完備情報ゲームにおける、純粋戦略ベイジアン・ナッシュ均衡の解法を習得する。
- ・簡単なゲームをモデル化し、分析・考察できる。

【概要】 ゲーム理論は、集団において、何らかのルールに従って行動する複数の主体の意思決定が戦略的に相互に影響を及ぼし合う状況を分析する。この主体間の相互依存関係を取り扱うゲーム理論は、経済学にとどまらず、経営学、政治学、社会学、さらに生物学等、広範な分野で有効な分析道具となっている。とりわけ、不完全競争市場における企業等の戦略的行動を分析するミクロ経済学の習得には必須であろう。この授業では、身近な経済の例を用いて、わかり易く解説する。

232210 産業組織論

【到達目標】

- ・市場構造の違いにより、企業の行動が異なり、その結果、価格と社会的厚生が異なることを理解する。
- ・寡占市場における企業行動がゲーム理論によって分析可能であることを理解し、解の求め方を習得する。
- ・コンテストブル市場の理論を理解する。

【概要】 産業組織論は反独占政策の基礎理論として発展した応用ミクロ経済学の一分野であり、市場構造と市場成果の関連をめぐって、ハーヴァード学派とシカゴ学派のあいだで激

しい論争が繰り広げられてきた。この講義では、第3の潮流として1970年代に一躍主流派に躍り出た、ゲーム理論の成果を取り入れた新しい産業組織論（New Industrial Organization Theory）の基本事項を学び、企業の戦略的参入阻止ゲームを考察する。さらに、コンテストブル市場の理論を概観し、インターネット経済について考えたい。

232211 都市・地域経済学

【到達目標】

- ・日本の地域構造についての知識を得る。
- ・土地利用について経済学の視点から理解する。
- ・都市・地域の直面する諸問題について知識を得る。

【概要】 都市の空間的経済構造に対してミクロ経済学の分析手法を用いて理解することを目的とする。まず、都市の成立、発展の諸要因について知識を深め、経済活動の立地と土地利用に関する理論を学ぶ。さらに、現代社会が抱える土地問題、住宅問題、都市交通問題などの個別のテーマについて知識を深め、この諸問題に対する政府の役割について考える。必要に応じて地域分権化の流れを受けたまちづくりの現状や都市の設計等、日本の地域や都市の現状についても具体的に言及する。

232212 ジェンダーの経済学

【到達目標】

- ・フェミニスト経済学の分析視覚と理論に対する理解を深める。
- ・ケア労働（家事、育児、介護など）に関する知識を深め、ケア労働とマクロ経済との関係を考察する能力を養う。
- ・予算のジェンダー分析枠組や分析方法を理解する。

【概要】 この授業では、主流派経済学が構築した理論やそれに基づいて構築された諸制度に関して、ジェンダー視点から分析するための方法を学んでいく。まずフェミニスト経済学の分析視角や理論展開を学び、その理論を実証分析に活用する方法を検討する。具体的には、GDPや失業といった概念の見直し、統計の問題、家庭内における利害対立及び意思決定のゆがみ、性と生殖および結婚に関する行動、人口問題、政策の帰着分析などを取り上げる。

232213 女性起業論

【到達目標】

- ・「女性」が起業するということがどういうことなのかをはっきりと答えられるようにする。
- ・通常の起業と女性の起業のどこが違うのかを認識できるようにする。
- ・女性が起業するにあたっての現実的な課題の整理とその克服の方法を習得する。

【概要】 起業に関する書籍は数多く存在するが、事例を取り上げるだけであったり、そうでなくてもケーススタディを行うだけで留まっていることが多く、明確な起業のための方針

や考え方の基準、方法論が示されていることはあまりない。さらにそれを女性の観点からとらえるものも非常に少ない。この授業では女性が起業するというテーマにしたがって、単なる事例紹介をするのではなく、その基本的な考え方や方法論を考察する。また実際に起業するにあたって克服すべき課題や技術的要素についても取り上げたい。

232214 福祉の経済学

【到達目標】

- ・人間にとっての福祉とは何か、幸せとは何かという本質的な問いかけに対する答えを見つけようとする姿勢を身につける。
- ・少子高齢化に伴う問題の本質を見極める。
- ・格差とは何かを考えることができるようにする。

【概要】 少子高齢化の進展による介護の問題や育児の問題、格差の問題、ワーキングプアの存在など、福祉に関わる問題はより深刻になりつつある。この授業では、経済学の考え方に基づいて、これらの問題を感情的にはなく、論理的に冷静にとらえることによって、問題の本質を分析し、政策提言に結びつけていくことを目的とする。そのためには市場の失敗や所得分配の公正の理論など、発展的な分野での経済学の学習が必要であるので、これらも合わせて考えていきたい。

232215 現代経済論

【到達目標】

- ・現実に見られる企業行動の現象を理解し、分析することができるようになる。
- ・市場経済がどのような場面で有効に機能し、そして有効に機能できないか、ということが判断できるようになる。
- ・実際の政策提案への展望ができるようになる。
- ・より現実的な経済問題に論理的（特に数学的）思考を的確に当てはめることができるようになる。

【概要】 現代日本を取り巻く経済問題はより一層複雑になってきている。こうした経済問題に対する処方箋として提案される主張は百家争鳴の感があり、正反対の主張がなされることもある。本授業においては、これらのさまざまに提案される主張を整理するために、経済学の考え方を活用し、経済学の観点からそれらの主張の本質を明らかにすることを目標としている。本授業を履修することによって、一見複雑に見える多くの提案の内容を解きほぐす能力を身につけることを目指す。

232216 アメリカ経済論

【到達目標】

- ・まず次の2つの点の理解を目標とする。① 現実の事象を経済学の視点で考えること、②

経済政策をマクロ経済学の考え方にもとづいて理解できること。そして、アメリカについて理解を深めると共に、アメリカ経済を題材にしてマクロ経済学の基本を理解する。

【概要】 この授業では、1980年代以降の経済政策を中心に戦後のアメリカにおける経済政策を講述する。アメリカの経済政策は、主流派が需要サイド重視の経済学から供給サイド重視の経済学へと移行したマクロ経済学の影響を強く受けている。そのため、講義ではマクロ経済学の考え方を説明しながら、現実の経済政策を考えてゆく。具体的なトピックは、ニューエコノミクスとケネディ・ジョンソン期の経済政策、サプライサイド経済学とレーガノミクス、労働生産性の上昇とニューエコノミーなどである。また、経済政策には大統領制や連邦制というアメリカ独自の制度が色濃く反映されており、その点についても説明する。

232217 EU 経済論

【到達目標】

- ・ヨーロッパが経済統合を行うことになった歴史的・思想的背景を理解する。
- ・EU 経済統合の諸側面について基本的知識を身につける。
- ・EU 経済統合の現状と直面している問題を理解し、今後の方向について見通しを持つ。

【概要】 欧州連合(EU)の成立とユーロの導入は、欧州の人々が50年越しの努力をした成果である。この講義では、まず、その背景を理解するために、成立の歴史的過程を辿り、EU 憲法条約を解説する。つぎに、EU 経済を理解するために、欧州の為替制度の変遷とユーロの導入、その経済効果、および経済の収斂と最適通貨論、安定成長協定を概観することにした。最後に、EUの拡大にともなう今後の課題を展望するとともに、その他の地域における経済ブロック化の動向との関連を検討する。

232218 アジア経済論

【到達目標】

- ・東アジアの経済が発展をとげてきた要因を探り、今何が問題となっているのか考える力を養う。
- ・世界の動きに関心を持ち、現状から問題点を知り、受け身ではなく、自発的に調べ、考え、表現できるようになる。

【概要】 東南アジア諸国における経済と社会の変容を、植民地化、独立、国家統合、経済開発、政治体制、社会開発、地方分権、民主化、ガバナンスなどのテーマを通じて学ぶ。そのさい、東南アジアを第三世界やアジア全体との関連で、また、「開発過程」というものを政治と経済と社会が一体となったシステムとして分析する。さらに、開発経済学や比較政治学の基礎的概念も習得するようにつとめる。

232219 中国経済論

【到達目標】

- ・中国を理解するうえでの基礎となる現代史の基礎知識を身につける。
- ・経済の実態を分析するうえでの基本的な着眼点と手法を知る。
- ・主要な産業について基礎知識を身につける。

【概要】 中国の経済発展過程を歴史、成長と構造変化、開発戦略といった多様な角度から叙述し、計画経済から市場経済への移行過程にある現代中国経済の直面する課題と今後とを平易に解説する。また、中国の経済に関する新聞や雑誌の報道を理解する基礎的な能力をつけることも目標とする。中国経済に関する新聞・雑誌記事を題材にしながら、中国に関する知識をつけ、経済問題に対する見方を養う。

232220 日本経済史

【到達目標】

- ・市場が深化することによって経済が成長するメカニズムを理解する。
- ・そのメカニズムに基づいた経済成長の帰結は、各国の歴史的経緯によって様々に変化するということを、日本やヨーロッパ諸国との比較を通じて具体的に理解する。
- ・各国の経済成長のレベルを比較する方法を理解する。

【概要】 この講義では、近世から近代の日本を対象に、経済成長とその源泉、成長のプロセスと帰結を、比較史的に検討する。日本経済の成長プロセスを追うことによって、経済発展論の基本概念を学ぶとともに、それらの概念を比較史の文脈で理解することがこの講義の目標である。具体的には、国際経済の枠組みの中での先進経済とのかかわり、政府の果たした役割、在来産業と近代産業および都市と農村との関連、資本・労働・スキルの変化などを検討する。

232221 経営史

【到達目標】

- ・経営の歴史的変遷を理解する。
- ・経営と社会環境の双方向の関連性を理解する。
- ・日米欧の経営の類似点と相違点を理解する。

【概要】 近年企業の社会的責任 (Corporate Social Responsibility) 論が活発に展開されているが、この講義では、19 世紀後半から 20 世紀にかけての創業者企業家の社会活動と、「所有と経営の分離」以降の大企業における CSR の捉え方を比較検討することにした。まず、イギリス、フランス、ドイツと先進経済における CSR の原初的形態を観察し、つぎに、アメリカ、日本における現代の CSR を概観する。さらに、CSR の主張の背景にあるビジネスとモラルの関係についても、歴史的に検討する。

232222 保険論

【到達目標】

- ・保険の原理や意義・役割を学ぶことで、保険が私たちの身の回りにあるリスクから守るための有効な手段であることを理解する。
- ・金融危機や社会現象等が、いかに保険業の動向に影響するかを理解する。

【概要】 私たちの生活は、交通事故、火災、地震、疾病、高齢化など様々なリスクにさらされている。これらのリスクから私たちを守るために、保険は必要不可欠な存在である。この授業では、保険の意義と役割について、リスクマネジメントと保険、私保険と社会保険、保険料のしくみといった基礎から解説し、火災保険・自動車保険・第三分野の保険（医療・傷害・介護）・生命保険（年金を含む）の意義と役割を考察し、最近の保険業の動向と問題点を検討する。

232223 証券論

【到達目標】

- ・基本的な証券および証券市場の知識を習得できる。
- ・日本経済新聞の証券面をほぼ理解する。
- ・二種証券外務員資格試験に合格するための基礎知識を習得する。

【概要】 「貯蓄から投資へ」の流れの中で、証券市場を取り巻く環境は大きく変わってきている。この授業では、証券市場が私たちの生活・ライフプランにどのように関わっているのかを具体的に見てゆくことにしたい。まず、金融・証券の基礎知識を解説し、証券市場の役割とその歴史的変遷を概観する。ついで、証券関連規制の緩和が証券会社に及ぼした影響や、個人投資家の増大が証券市場に及ぼした影響など、最近の変化を踏まえた上で、証券投資の心構え、資産運用について学習する。

232224 中小企業論

【到達目標】

- ・中小企業の事例を通して商品開発と市場創造について理解し、その初歩的な知識とスキルを獲得する。

【概要】 メディアは大企業に注目を集めがちだが、優れた中小企業も決して少なくない。とくに、商品企画や消費文化の開発において、創造的な中小企業が数多く観察される。この講義では、そのような創造的日本企業（主に中小企業だが理解のため大企業との比較検討を含む）について、商学・経営学の予備知識からじっくり考察を加え、実務に携わる企業人（経営者・実務家）を招いて実体験を伺う機会も設けながら、受講者の社会的活動の現場で活用可能な教養を深めることを目標とする。

232225 経済法

【到達目標】

- ・経済法の中でも国際経済法を中心に基礎的な知識を習得する。
- ・独力で社会に実在する利益の対立状況を把握できるようになる。
- ・独力で利益対立を調整する上で必要な法的思考方法を応用できるようになる。

【概要】 この授業では、経済法の中でも、国際社会における国家や企業の経済活動から生じる利益調整問題を包括的に取り扱う国際経済法を主に論じる。競争法、金融法、租税法等、広範な主題に関わる国家法と国際法、私法と公法、実体法と手続法等につき法学初級者向けに基礎知識を説明する。個別のトピックスとしては、近年問題になってきている、国境を越える労働者を取り扱う国際労働法、知的財産権重視政策の基盤である国際知的財産法、国際的な環境対策のための国際環境法などを取り上げる。

232226 企業法

【到達目標】

- ・商法の重要分野について、ひとつおりの知識を体系的に習得する。
- ・会社法制度に関する基礎的な知識を習得する。
- ・経済学的観点を踏まえて「市場」や「法制度」の役割について理解し、説明することができるようになることを目指す。

【概要】 この授業では、商法の重要分野について、ひとつおりの知識を体系的に習得することを目標にする。単に「法律がどうなっているか」だけではなく、「なぜそうなっているか」という点を理解できるようにしたい。もっとも、企業に関わる法は幅広く存在し、その全てを網羅的に学習することは不可能である。そのためこの授業では、特に重要と思われる分野、会社の運営に関する法（会社法）および証券市場に関する法（金融商品取引法）を中心に取り上げる。

232227 労働法

【到達目標】

- ・労働法に関する基礎的な知識を習得する。
- ・現実に雇用問題に直面したときに、労働者として自己にいかなる権利があり、どのように解決を図ったらよいかについて正しい知識を習得する。

【概要】 この授業では、まず、国民の8割以上を占める雇用者に関する法制度である労働法の歴史と基本的仕組みを概説し、労働者の権利と義務といった労働法の基本的な考え方を明らかにする。その上で、労働契約、賃金、人事異動、労働時間、ハラスメント、解雇、団体交渉など、労働のあらゆる場面に対応する法知識の習得を目指す。また、女性と雇用社会に関する課題や近年大きな問題になっている非正規労働の問題を重視する。学生にとっても、アルバイトを通じて身近な問題である労働の問題を法律的に考えることができるようになることを目指す。

232228 経営戦略論

【到達目標】

- ・企業や市場、産業の違いによってどのような経営戦略の違いがあるのかを見極めることができるようにする。
- ・動態的な社会環境の中にあつて、どのように経営戦略を対応させていくかを考えることができるようにする。
- ・非営利企業における戦略の立て方についても対応できるようにする。

【概要】 同じような規模であり、同じような製品やサービスを扱う企業であっても経営成績には大きな違いがあることがある。また企業によつてもあるいは産業自体にも栄枯盛衰がある。これらにはマクロ経済的な影響もあるけれども、その本質は経営戦略の立て方にあるといえる。この授業では、競争市場における各企業の戦略の立て方がどのようなパフォーマンスをもたらすのか、あるいは企業規模（規模の経済）と戦略の関係、ネットワークを構成する産業における競争戦略などについて取り上げ、最適な経営戦略とは何かという問いに答えていきたい。

232229 マーケティング

【到達目標】

- ・マーケティングとはどんな学問か、その定義を理解する。
- ・マーケティングの基礎理論として4P (Product, Price, Place, Promotion) によるマネージメントを理解する。
- ・マーケティングの基礎理論を習得することで、日常生活で直面している商取引の事象がマーケティングの視点でどのような意味を持っているのか、自らの意見を述べることができるようになる。

【概要】 マーケティングは、定義の進化と広い研究領域を持ち、経営での実践を併せ持つ、ダイナミックな学問である。近代マーケティングの構成は、マーケティング・マネージメントをコアに、マーケティング戦略、マーケティング・リサーチ、消費者行動論、プロダクト・マネージメント、広告論、流通論と、新しい展望領域（サービス、エコロジー等）に大別できる。本講では、近代マーケティング全体構成を把握し、マーケティングの中核であるマーケティング・マネージメント、マーケティング戦略、プロダクト・マネージメントの理論習得を目指す。

332201 消費者行動論

【到達目標】

- ・消費者の購買の意思決定のプロセスを理解する。
- ・消費者行動に影響を与える要因（内的要因と外的要因）を理解する。

- ・消費者行動の理論を企業のマーケティング戦略との関連で理解し、有効なマーケティング手法を提示する。

【概要】 この講義では、消費者はどのようにしてモノやサービス、ブランドを選択し、消費するのかを論理的に理解する。消費者の行動を理解することは、企業がマーケティング戦略を策定し実践していく上で重要な知見となる。講義では、まず、消費者行動論の基礎的な知識や理論を習得する。その上で、購買の意思決定に影響を与える消費者個人の行動原理や心理的機能およびプロセスについて、演習やグループワークも取り入れながら、実践的な事例を分析し、議論する。

332202 人的資源管理論

【到達目標】

- ・従業員を採用し、育成し、やる気を引き出すために使われる人事の機能について理解できるようになる。
- ・人事の取り組みが組織に与える影響を計算する方法を習得する(例：離職によるコスト、研修プログラム、報酬や福利厚生パッケージ)。
- ・仕事に関連する最新の動向を、理論に基づいて説明できるようになる。

【概要】 この講義では、人的資源管理の基礎を学ぶ。人的資源管理は、組織内で人材を活用し成長させるための重要な考え方である。講義では、人的資源管理の歴史の変遷や基本的な役割・機能を学ぶ。さらに、組織が従業員を採用・育成・評価・報酬・労働関係の面でどのように管理するかを学ぶ。効果的な採用プロセスや人材戦略、従業員の成長やトレーニングの重要性、労働法や報酬制度にも触れる。また、給与制度や福利厚生、労働環境の管理についても学ぶ。講義を通じて組織の考え方を理解し、将来の就職活動やキャリア形成に役立てられるようにすることを目標とする。

232230 簿記論

【到達目標】

- ・複式簿記の仕組みを体系的に理解する。
- ・会計の基礎的な考え方と基礎的な用語を理解する。
- ・取引を仕訳することから財務諸表(貸借対照表と損益計算書)の作成までできるようにする。
- ・日本商工会議所簿記検定試験3級(商業簿記)の合格レベルの実力をつける。

【概要】 この科目でいう簿記とは複式簿記をいう。複式簿記とは企業の経営活動を貨幣という共通尺度を用いて、記録、計算、作表する世界共通の技術体系である。会計学関係のみならず経営学関係の科目を学ぶ際の基礎となる科目である。具体的には複式簿記原理の理解、勘定科目ごとの仕訳処理、帳簿の種類と記帳の理解、決算時の仕訳処理、試算表や精算表の作成、損益計算書や貸借対照表の作成等を学習する。企業形態としては個人商店を前提とし、

複式簿記の基礎的理解と技術を修得することを目標とする。

232231 財務会計

【到達目標】

- ・会計基準や会計制度について一定程度の説明ができるようになる。
- ・財務諸表を通じて企業の実態を見極めることができるようになる。

【概要】 「財務会計」とは、株式会社において株主にその会社の資産状況や経営状況を報告し、政府に対しては納税に関する報告をするために必要な会計上の方法である。この授業では、簿記の基本的な考え方を身につけているという前提で、会計制度や会計基準の説明からはじめて、財務会計の基本的な方法論、そして財務諸表等を通じて企業の実態を見極めるスキルを養成することにする。

232232 管理会計

【到達目標】

- ・原価計算の技術を身につけることによって企業経営の方針を確立できる能力を身につける
- ・財務データを駆使して、企業の投資計画を考察できる能力を養成する。
- ・企業の経営成績を分析できるようにする。

【概要】 「管理会計」とは、企業がより良い成果を上げるために、会計データをどのように加工し、読みこなし、経営に活用するかを取り扱う「財務会計」に対応した分野である。経営上のデータを漫然と眺めることなく、企業経営に役立てるためのノウハウを修得する。具体的には原価計算の手法、投資計画の立て方、企業の各部門の経営パフォーマンスの測定手法などについて取り扱う。

232233 ロジスティクス論

【到達目標】

- ・物流とはロジスティクス、SCMとは何か理解する。
- ・企業におけるロジスティクス概念の活用事例について知識を得る。
- ・物流に関連する政策について理解する。

【概要】 本講義では物流、ロジスティクス、さらにはSCMに至る歴史的流れを理解するとともに、経済活動における機能について理解を深めることを目的とする。物流とは流通の物理的側面を指し、生産と消費の空間的、時間的ギャップを埋めるものである。一方、ロジスティクスとは顧客の要求を満たすため、情報を効果的に用いながら、企業内の生産、販売、物流の最適化を目指すものであり、企業経営においてより戦略的に用いられる概念である。さらに企業間連携を伴うSCMの概念にも触れることで現代の企業活動をものの流れから理解する。

232234 経営ファイナンス論

【到達目標】

- ・資金調達の仕事と方法について理解できるようにする。
- ・最適ポートフォリオの選択が出来る技術を習得する。
- ・資産運用についてのリスクの考え方ができるようにする。

【概要】 企業が事業を始めるとき、どのように資金調達をするべきか、そして企業が資産を持っているときに、それをどのように運用するかは企業の発展を左右する重要な決定事項である。資金調達の仕組みや方法、そして資産運用の仕組み、リスクへの対応、その成果の把握などについて、この授業では取り扱う。ファイナンスを考える以上、数学的あるいは統計学的な考え方は必須である。特に動学的、動的な考え方は重要である。このことから数学、統計学に関する最低限の知識は身につけておいて欲しい。

■基礎演習

232301 基礎演習（経済学）

【到達目標】

- ・経済学の考え方を身につける。
- ・経済学用語を理解する。
- ・議論の仕方を身につける。
- ・レポートの書き方を習得する。
- ・日本経済と世界経済の現状と課題について理解する。

【概要】 これから経済学を学ぼうとするにあたって、そもそも経済がどのような仕組みで機能しているのかを知らなければ学習は意味をなさない。この科目では、経済の仕組みをまず理解し、どこに問題があり、それをどのように取り扱っていくのかについて関心を高め、社会問題について経済学の立場から取り組む姿勢を確立することにする。またそれと同時に、これから経済学を学ぶための学術的な技法も習得することにも重点を置く。具体的には、レポートの書き方や議論の仕方について学習する。

332301 アクティブラーニング実習（経済経営） 1

【到達目標】

生活や仕事における問題発見力と解決策の提言の基本を学び、それを身の回りの出来事や興味を持った分野で実際に体験してみることで、将来それらの手法を生かせるようになることを目指す。

【概要】 社会人になって最も大事なスキルと言って過言ではない、自ら問題を発見して解決策を考えていく力を身につけるための実践的講義である。

世の中の社会課題を発見し、それを整理する方法や解決策を考える力を学ぶ。例えば、お店や公共施設などを訪問したり、観察してそこにあると思われる課題を発見し、解決策を考えることを体験する。

加えて、ビジネスの世界で行われている課題発見の方法や解決策の考え方についての基本を学ぶ。

332302 アクティブラーニング実習（経済経営） 2

【到達目標】

生活や仕事における問題発見力と解決策の提言の基本を学び、それを身の回りの出来事や興味を持った分野で実際に体験してみることで、将来それらの手法を生かせるようになることを目指す。

【概要】 社会人になって最も大事なスキルと言って過言ではない、自ら問題を発見して解決策を考えていく力を身につけるための実践的講義である。

アクティブラーニング実習 2 では、実際のビジネスの現場を訪問したり、対話することでビジネスの世界で行われている課題発見の方法や解決策の考え方についての基本を学ぶ。さらに、協力企業に対してプレゼンテーションを行うことで企業目線の課題発見と解決方法について学ぶ。

232302 2年次演習（経済学） I

【到達目標】

- ・ 経済学理論の説明を、英語で読解する能力を身につける。
- ・ 英語での図や表の見方を習得する。
- ・ プレゼンテーションの能力を身につける。

【概要】 この演習では、英文テキストの読解を通じて、1年次に学んだ経済学の基本に対する理解を深めることを目標としている。英文テキストをじっくり読むことによって、専門用語の定義をしっかりと習得することができるだけでなく、論理的な思考方法と経済学的な考え方を身につける。

232303 2年次演習（経済学） II

【到達目標】

- ・ 英文テキストの精読を通じて経済学理論の理解を深める。
- ・ 論理的な思考方法と経済学的な考え方を身につける。
- ・ プレゼンテーションの能力を養う。

【概要】 「2年次演習(経済学) II」では、「2年次演習(経済学) I」に引き続き、英文テキストの精読を通じて、経済学の基本に対する理解を深める。英文テキストをじっくり読むことによって、専門用語の定義をしっかりと習得するとともに、論理的な思考方法と経済学的な

考え方を身につける。そして、この演習を通じ、3年次からの応用演習への導入として、経済の各分野における理論と現実との対応関係を自分自身で考えることができるようになることを目指す。

■発展演習

232401 社会調査実習 I

【到達目標】

- ・専攻領域に即した社会調査の意義を理解する。
- ・社会調査を計画立案する力をつける。
- ・社会調査の計画立案および実施の実際を体得する。

【概要】 社会学、経済学、国際関係という各々の専攻領域において社会調査を行う意義、各専攻領域で採用される調査方法の概要などについて、実習形式で学ぶ。それぞれの専攻領域における調査研究の方法論、調査報告書などの先行研究を読み解き、調査計画の立案、調査票の設計などをめぐる考え方を確認した上で、実際に調査を計画立案し、調査票等を設計する。

232402 社会調査実習 II

【到達目標】

- ・(質的調査法について) 聴き取り、観察、文書資料の解読などの実際を体得する。
- ・(量的調査法について) データ収集、集計、分析などの実際を体得する。
- ・調査結果を分析し、報告書を作成する力をつける。

【概要】 社会学、経済学、国際関係という各々の専攻領域における調査研究の理念、方法などの理解に基づき社会調査実習 I で立案された調査計画、設計された調査票をもとに調査を実施し、データ整理・分析を行う。採用する調査方法(量的調査法、質的調査法など)の特徴を理解し、調査対象の選定、調査の実施、コード化と集計、結果の解釈、報告書の作成などの実際について実習形式で学ぶ。自ら質問紙調査、聞き取り調査などを経験することで、社会調査の方法を卒業論文研究に用いるための準備とする。

232403 3年次演習(経済学) I

【到達目標】

- ・テキスト・文献・資料の内容を正確に理解する能力を養う。
- ・さまざまな社会問題、経済学的な思考方法によって捉える力を身につける。
- ・報告・討論を通じて、プレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力を養う。

【概要】 「3年次演習(経済学) I」は、1・2年次の基礎演習で獲得した理論をそれぞれの経済学分野に応用し、現実経済の動きを自分自身で分析できるようにする。公共経済学、

環境経済学や開発経済学などの分野による区分、中国やアジア、あるいはヨーロッパやアメリカなど対象国・地域による区分、計量的アプローチや理論的アプローチあるいは歴史的アプローチとアプローチごとによる区分の3種類を組み合わせ、学生は自らの関心にしたがって演習を選択する。

232404 3年次演習(経済学)Ⅱ

【到達目標】

- ・前期に引き続き、テキスト・文献・資料の内容を正確に理解する能力をさらに向上させる。
- ・さまざまな社会問題、国際問題を経済学的な思考方法によって捉える能力をさらに高めることを目指す。

【概要】 「3年次演習(経済学)Ⅱ」は、1・2年次の基礎演習や「3年次演習(経済学)Ⅰ」で習得した理論や分析ツールをそれぞれの経済学分野に応用し、現実経済の動きやさまざまな社会問題を自分自身で分析できるようにする。

232405 4年次演習(経済学)Ⅰ

【到達目標】

- ・卒業論文のテーマに関する専門的知識を習得する。
- ・必要な文献や統計データを収集する力を身につける。
- ・卒業論文の作成に必要な、経済学に基づく論理構成力を養う。
- ・報告・討論を通じて、プレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力を養う。

【概要】 「4年次演習(経済学)Ⅰ」では、各分野の知識を深化させ、各自がテーマを絞ってより専門的な学習を行うとともに、相互の議論を通じて、主体的に研究を進展させる能力を養う。卒業論文の作成とも連動させながら、先行研究のリサーチ、必要な資料・文献やデータの収集と整理、論文の構成の立て方など、論理的・客観的な学術論文を執筆できるようにする。

232406 4年次演習(経済学)Ⅱ

【到達目標】

- ・前期に引き続き、卒業論文に関する専門的知識を習得する。
- ・必要な文献や統計データを収集する力を身につけると共に、統計処理の方法についても習得する。
- ・卒業論文の作成に必要な、経済学に基づく論理構成力を養う。
- ・前期に引き続き、報告・討論を通じて、プレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力を養う。

【概要】 「4年次演習(経済学)Ⅱ」では、「4年次演習(経済学)Ⅰ」に引き続き、各自が決定した卒業論文テーマに沿って、その分野の知識をさらに深化させるとともに、相互の議

論を通じて、主体的に研究を進展させる能力を養う。卒業論文の作成とも連動させながら、先行研究のResearch、必要な資料・文献やデータの収集と整理、論文の構成の立て方など、論理的・客観的な学術論文を執筆できるようにする。

社会学専攻

■入門

233001 社会学概論Ⅰ

【到達目標】

- ・社会学の対象と方法を理解する。
- ・社会学のキーテーマを把握する。
- ・社会学的なものの方の見方の特徴をつかむ。

【概要】 社会学の対象と方法を明確化し、社会学とはどういう学問かをしっかりと理解することを目標とする。人々のあいだから生み出されるさまざまな事象、たとえば行為、集団、組織、規範、儀礼、役割、自我、支配／服従、「個人と社会」など、多種多様なものごとを社会学の観点から見ていくために必要な基礎的手続きや方法を学ぶ。

233002 社会学概論Ⅱ

【到達目標】

- ・社会学の主要な研究領域を把握する。
- ・各研究領域における代表的な社会学知を理解する。

【概要】 社会学の代表的な研究領域、たとえば生産と消費、監視、リスク、国民国家、共同体、ネットワーク、世論、メディア、近代家族、親密性、ジェンダー、学校、医療、労働、文化、階層などについて、何が問題とされ、何が発見されてきたのかを理解することを目標とする。社会学という道具を用いて今ある「社会」を、またその「社会」とかかわり合って暮らす自分自身を捉えなおす作業を通じて、具体的な研究領域に分け入り学習を進めていくための基礎を固める。

■基礎講義

233101 社会学史Ⅰ

【到達目標】

- ・社会学の成立過程を理解し、社会学的発想の特徴をつかむ。
- ・成立期から 20 世紀初頭にかけての社会学のキーテーマ、キー概念を把握する。

【概要】 社会学理論がいかに同時代の具体的社会状況とかかわって発展してきたかを学び、社会学という学問の輪郭を把握する。社会学の黎明期から 20 世紀初頭までの社会学の歴史を、労働、社会分化、宗教、都市などのキーワードから複合的に理解する。社会学的発想の成立からはじめ、社会学の洗練に向けた一般社会学への志向、社会学の対象と方法の確定、理念型、分業と行為、宗教と社会統合、形式社会学といった代表的トピックを概観する。

233102 社会学史Ⅱ

【到達目標】

- ・ 20 世紀以降の社会の変動にともなう社会学の変容過程を理解する。
- ・ 20 世紀以降の社会学の諸潮流およびキーテーマ、キー概念を把握する。

【概要】 これまでの社会学理論がいかに関時代の具体的社会状況とかがわって発展してきたかを学び、社会学という学問の輪郭を把握する。1930 年代前後から現在までの社会状況を背景とした社会学的知のありようを理解する。フランクフルト学派と批判理論、タルコット・パーソンズ、西欧社会学の危機と再生、構造主義とその影響、社会理論とコミュニケーション論、社会秩序と日常生活、グローバル化と世界社会などの観点から社会学史の流れを整理する。

233103 社会調査法 A

【到達目標】

- ・ 社会調査の意義と概要を理解する。
- ・ 社会調査リテラシーの基礎を身につける。
- ・ リテラシーに基づいた基礎的調査能力を養う。

【概要】 社会学の特徴は、社会に対する研究者の問題関心、社会を説明する理論、社会を把握する調査方法の三者が密接に関係している点にある。具体的な研究事例に即して、問題関心と社会調査法の関係および社会調査の実施方法について理解を深める。社会学における社会調査の歴史、計量的社会調査と非計量的社会調査、フィールドワークの可能性と限界、調査者と被調査者の関係、個人の歴史と社会の歴史、価値関心に導かれた社会調査、政策形成に貢献する社会調査、調査倫理などのキーテーマを扱う。

■ 応用講義

233201 社会調査法 B

【到達目標】

- ・ 計量的社会調査の意義と概要を理解する。
- ・ 計量的社会調査の基礎を身につける。
- ・ 調査結果の基本的分析力を養う。

【概要】 社会学的社会調査の方法のうち、調査票を用い、サンプリングを施した計量的社会調査の方法と実施上の諸問題について解説する。調査の構想、設計、実施、分析までの一連のプロセスを学んでいくことを通して、受講者が卒論などで自ら計量的社会調査を行うための基礎とする。調査の構想と調査票の作成、サンプリングと調査実施の手順、調査実施の諸方法と諸問題、コーディングとデータクリーニング、集計結果の解析の基礎などのキーテーマを扱うほか、代表的研究事例について解説する。

233202 社会調査法 C

【到達目標】

- ・ 質的社会調査の意義と概要を理解する。
- ・ 質的社会調査実施の基礎を身につける。
- ・ 調査結果の基本的分析力を養う。

【概要】 社会学的社会調査の方法のうち、インタビューや参与観察、フィールドワークなど質的調査法の基本を解説し、受講者が卒論などで自ら質的社会調査を行うための基礎とする。問題関心や研究対象に応じた質的調査法の選択、質的調査の準備と実施、調査結果の分析の基礎、調査倫理などのキーテーマを扱うほか、代表的研究事例について解説する。

233203 社会統計学 I

【到達目標】

- ・ 社会学的研究における統計分析の意義を理解する。
- ・ 統計的データの分析に必要な推測統計学の基礎を養う。

【概要】 統計的データの分析（データによる記述、推論、検証、予測）のために必要な、推測統計学の基礎知識を学ぶ。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）、サンプリング理論、属性相関係数（クロス表の統計量）、相関係数、偏相関係数、変数のコントロール、回帰分析の基礎などを扱う。これらを社会学および社会調査の問題意識のなかに位置づけて理解することにも力点を置く。

233204 社会統計学 II

【到達目標】

- ・ 社会学的研究における多変量解析の意義を理解する。
- ・ 基礎的な多変量解析法について、基本となる考え方と主要な計量モデルを理解する。

【概要】 社会調査データの分析（データによる記述、推論、検証、予測）に用いられる基礎的な多変量解析法について、基本となる考え方と主要な計量モデルについて学ぶ。重回帰分析を基本としながら、他の計量モデル（たとえば、分散分析、パス解析、ログリニア分析、ロジスティック回帰分析、因子分析、数量化理論、マルチレベル分析、イベントヒストリー分析など）の中から若干のものをとりあげる。具体的な社会学的研究事例の紹介を通して、問題意識に適した統計分析の活用法を理解することにも力点を置く。

233205 家族社会学 I

【到達目標】

- ・ 家族社会学の視点およびキーテーマ、キー概念を把握する。

- ・家族への社会学的アプローチの意義を理解する。
- ・家族をめぐる諸問題を社会的に究明する力を養う。

【概要】 家族をめぐるキーテーマを取り上げ、家族社会学の対象と方法を概説するとともに、代表的な知見を紹介する。家族の多様性を視野に入れながら家族の歴史および現在を考える。家族の文化的多様性、法などの社会制度や社会政策との関連、地域社会・職場社会・学校教育など他の社会領域との関連、個々の家族成員のライフコースやネットワークとの観点からみた家族、疑似家族としての共同性など、社会の中の家族を多様な文脈において理解する視点を提供する。

233206 家族社会学Ⅱ

【到達目標】

- ・家族社会学の特定のテーマについて理解を深める。
- ・家族をめぐる諸問題につき独自の社会的考察ができる力を養う。

【概要】 家族の形成、夫婦間関係、世代間関係、家族の機能、家族に関する諸制度、家族をめぐる社会問題、新たな家族形態などの各論的テーマを取り上げ、代表的な知見を紹介する。他の社会領域との関連も含めて、各論的な視点から家族の歴史と現状を理解することを通して、社会の中の家族のよりよいあり方を考えるとともに、現代家族をめぐる諸問題と求められる対応についても考察する。

233207 地域社会学

【到達目標】

- ・地域社会学の視点およびキーテーマ、キー概念を把握する。
- ・地域への社会学的アプローチの意義を理解する。
- ・地域をめぐる諸問題を社会的に究明する力を養う。

【概要】 現代日本の地域社会（都市と村落の両方を含む）を社会的視点から分析することの有効性を、情報、コミュニティ形成、生活文化、伝統と現代、地域計画とまちづくり、地域の安全性など地域社会学のキーテーマに即して考える。グローバル社会の結節点としての地域をめぐる諸問題、地域の生活世界と危機管理など、現代の変わりゆく地域の諸相についても学ぶ。

233208 都市社会学

【到達目標】

- ・都市社会学の視点およびキーテーマ、キー概念を把握する。
- ・都市への社会学的アプローチの意義を理解する。
- ・都市をめぐる諸問題を社会的に究明する力を養う。

【概要】 都市という独特な世界に対する社会学の代表的なアプローチ法を学ぶ。特に大都

市について、多種多様な人々が都市のなかでいかに生き、また都市をつくり出しているかを動的に理解する視点を、具体的トピック（暮らし、文化、社会問題など）に関する研究事例や調査データを取り上げて提示する。

233209 現代社会論

【到達目標】

- ・ 社会学的現代社会論の視点およびキーテーマ、キー概念を把握する。
- ・ 現代社会への社会学的アプローチの意義を理解する。
- ・ 現代社会の諸問題を社会学的に究明する力を養う。

【概要】 現代社会をとらえる社会学的アプローチについて考える。現代社会を分析するために構築された理論・学説の紹介を中心に、現代社会を特徴づけるいくつかのトピックを取り上げる。たんに社会学理論・学説に関する知識を身につけるだけでなく、それらを用いて実際に現代社会において生起しているさまざまな現象や問題に切り込んでいく力をつけることを目指す。

233210 日本社会論

【到達目標】

- ・ 社会学的日本社会論の視点およびキーテーマ、キー概念を把握する。
- ・ 日本社会への社会学的アプローチの意義を理解する。
- ・ 日本社会の諸問題を社会学的に究明する力を養う。

【概要】 とくに日本社会に焦点を当て、社会学的アプローチによりその特質や諸問題を考察する。日本社会の分析例を紹介しながら、いくつかの具体的な問題を取り上げ、実態や問題の生成メカニズム、問題解決のための理念や方策などに関して、社会学の観点から検討を加える。現代日本社会におけるさまざまな具体的問題に切り込んでいく力をつけることを目指す。

233211 政治社会学

【到達目標】

- ・ 政治社会学の視点およびキーテーマ、キー概念を把握する。
- ・ 政治への社会学的アプローチの意義を理解する。
- ・ 政治をめぐる諸問題を社会的に究明する力を養う。

【概要】 社会学でいう「政治」とは、「政治家」の行為や行政に限られない多面的な要素をもつ。政治学とは異なる政治社会学の視点について概説したうえで、官僚制と行政、社会運動と政治、国家と日常生活、監獄の誕生、性と権力、新しい政治参加などのキーテーマを考察し、現代社会における広い意味での政治について考える。

233212 公共社会学

【到達目標】

- ・公共社会学の視点およびキーテーマ、キー概念を把握する。
- ・公共性への社会学的アプローチの意義を理解する。
- ・公共性をめぐる諸問題を社会学的に究明する力を養う。

【概要】 現代社会の社会問題から事例をいくつか採り上げ、そこで生じている幸福／不幸の現状を社会学的に考察する。とりわけ、現代社会のさまざまなディバイドに着目しつつ、マイノリティの文化について現況を説明し、バリアフリーな社会のあり方について各論的に考察する。そうした事例的な考察を踏まえながら、現代文化はどのような問題を抱えているか、それをとらえる視点はどのようなものであるべきか、といったことについて具体的に考察をくわえてゆく。

233213 労働社会学Ⅰ

【到達目標】

- ・労働社会学の視点およびキートピック、キー概念を把握する。
- ・労働への社会学的アプローチの意義を理解する。
- ・労働をめぐる諸問題を社会学に究明する力を養う。

【概要】 労働・仕事をめぐるキーテーマを取り上げ、労働社会学の対象と方法を概説するとともに、代表的な知見を紹介する。労働・仕事をめぐる文化、法などの社会制度や社会政策との関連、家族や学校教育、地域社会など他の社会領域との関連、働く人々にとっての働くことやキャリアの意味など、労働・仕事・職場世界の歴史と現在を考察する多様な社会学的視点を紹介する。

233214 労働社会学Ⅱ

【到達目標】

- ・労働社会学の特定のテーマについて理解を深める。
- ・労働をめぐる諸問題につき独自の社会学的考察ができる力を養う。

【概要】 働くことをめぐる企業内制度、職業生涯、ライフスタイルと就業意識、雇用形態の多様化、学校教育との関係、労働組合、アンペイドワークなどの各論的テーマを取り上げ、代表的な知見を紹介しつつ労働への社会学的アプローチについて考える。家族など他の社会領域との関連も含め、労働・仕事・職場の歴史と現状を理解することを通して、現代の労働世界が直面する諸問題と、求められる社会的対応を考察する。

233215 産業社会学

【到達目標】

- ・産業社会学の視点およびキーテーマ、キー概念を把握する。

- ・産業への社会学的アプローチの意義を理解する。
- ・産業をめぐる諸問題を社会学的に究明する力を養う。

【概要】 現代の産業について社会学的視点から考えていくことによって、産業活動への理解を深めることを目標とする。経済学など隣接社会諸科学のアプローチと産業社会学のアプローチの違い、産業社会学の諸理論、産業と技術革新、産業と市場、産業と資本、産業と社会などのキーテーマを扱う。

233216 組織社会学

【到達目標】

- ・組織社会学の視点およびキーテーマ、キー概念を把握する。
- ・組織への社会学的アプローチの意義を理解する。
- ・組織をめぐる諸問題を社会学的に究明する力を養う。

【概要】 企業組織を中心とするさまざまな組織について社会学的視点から考えていくことによって、組織への理解を深めることを目標とする。隣接分野のアプローチとの違い、組織社会学の諸理論、組織と成員、組織とコミュニティ、組織管理と管理者、組織戦略、組織と資本、組織と環境・社会などのキーテーマを扱う。

233217 ライフコースの社会学

【到達目標】

- ・ライフコースの社会学の視点およびキーテーマ、キー概念を把握する。
- ・ライフコースへの社会学的アプローチの意義を理解する。
- ・ライフコースをめぐる諸問題を社会学的に究明する力を養う。

【概要】 個々人や世代のライフコースを社会学的視点から考える。ライフコースをめぐる社会学の成立と展開について概観したあと、ライフステージや性別などに応じたライフコース上の具体的な諸問題とその変容、社会的背景やマクロ的影響について概説する。少子化と高齢化、晩婚化と非婚化、エイジング、ライフコースと職業・経済生活、ライフコースと家族、多様なライフコース、多様なライフコースを支える社会的仕組み、世代間関係などのキーテーマを扱う。

233218 福祉社会学

【到達目標】

- ・福祉社会学の視点およびキーテーマ、キー概念を把握する。
- ・福祉への社会学的アプローチの意義を理解する。
- ・福祉をめぐる諸問題を社会学的に究明する力を養う。

【概要】 社会保障や社会福祉政策の諸問題を社会学的視点から考える。福祉社会学の成立および展開について概観したあと、社会福祉政策と制度、家族・労働、児童福祉、母子・父

子福祉、高齢者福祉、障害者（児）福祉、社会福祉のヒューマン・パワー、社会福祉と人権などの各論的キーテーマを扱う。

233219 臨床社会学

【到達目標】

- ・臨床社会学の視点およびキーテーマ、キー概念を把握する。
- ・社会的事象への臨床社会的アプローチの意義を理解する。
- ・社会の諸問題を臨床社会的に究明する力を養う。

【概要】 社会の中の営みである社会学は、たんなる社会の考察にとどまらず、社会の生成や再生の現場に立ち会うことも課題の一部としてきた。臨床社会学の視点を概説したうえで、生と死をめぐる人間の脆弱さ、病や障害、さまざまな生きづらさや困難を抱える人々の経験、および医療や福祉、共助などによる支援と支え合いの現場をめぐる諸問題を扱う。

233220 文化社会学

【到達目標】

- ・文化社会学の視点およびキーテーマ、キー概念を把握する。
- ・文化への社会的アプローチの意義を理解する。
- ・文化をめぐる諸問題を社会的に究明する力を養う。

【概要】 人と人とを結びつけ、一定の社会秩序をもたらす規範としての文化という社会的な文化の定義を基本にしながら、文化と社会の関係、文化の階層構造、特定の文化のもとでの生きられた経験、マイノリティ文化などのキーテーマの検討を通じて、現代社会の文化について批判的に考察する目を養う。

233221 比較社会学

【到達目標】

- ・比較社会学の視点およびキーテーマ、キー概念を把握する。
- ・社会的アプローチによる社会間比較の意義を理解する。
- ・異なる社会を社会的に比較考察する力を養う。

【概要】 深刻な経済格差や社会的差別、環境問題など、現代社会を特徴付けるいくつかの問題現象について、先進国、途上国などの複数の社会をとりあげて比較考察することを通じ、比較社会学の視点を概説するとともに、比較の眼を養う。開発理論、社会構造論、システム論、歴史的視点など、比較社会学の諸理論を概観するとともに、貧困、開発、環境、平和、ジェンダーなどに関する各論的問題を扱う。

233222 多文化の社会学

【到達目標】

- ・多文化の社会学の視点およびキーテーマ、キー概念を把握する。
- ・多文化状況への社会的アプローチの意義を理解する。
- ・多文化状況をめぐる諸問題を社会的に究明する力を養う。

【概要】 文化を超えた人の移動の活発化や文化意識の高まりにともない、多様な文化や文化的アイデンティティの存在がますます意識されてきている。このことは、さまざまな積極的な可能性とともに、一層深刻な問題ももたらしている。異文化接触・交流、多文化政策、文化の輸出入、文化摩擦、社会的隔離・排除などのキーテーマを、国際的・国内的ないくつかの具体的トピックに沿って扱いながら、現代社会の多文化状況をめぐる動きを社会的に考察する。

233223 国際社会学

【到達目標】

- ・国際社会学の視点およびキーテーマ、キー概念を把握する。
- ・国民国家を超える事象への社会的アプローチの意義を理解する。
- ・国を国家を超える事象を社会的に究明する力を養う。

【概要】 現代社会の社会変動により、先進国と開発途上国の格差、先進諸国内での格差、地球的規模での環境問題、文化摩擦や民族紛争の問題、冷戦構造の崩壊と資本主義の世界化の問題などが生じている。こうした問題状況をとらえる視点として、国民国家を超えた社会のありようを考察する国際社会学について総論的に説明する。国民社会、国民国家、ナショナリズム、世界システム、サブ・ナショナルな単位と関わるエスニシティ、地域主義などの論点をめぐり、自明性としての国民国家の相対化、新しい分析ユニットの登場について論じる。

233224 グローバル化の社会学

【到達目標】

- ・グローバル化の社会学の視点およびキーテーマ、キー概念を把握する。
- ・グローバル化への社会的アプローチの意義を理解する。
- ・グローバル化をめぐる諸問題を社会的に考察する力を養う。

【概要】 現代社会の重要な徴候としてのグローバル化について、様々な領域で進行する世界的な統合と再編成を検討しながら考える。労働力、企業組織、コミュニケーション、消費、都市などのグローバル化を例に、国民社会、国民国家、ナショナリズム、世界システム、サブ・ナショナルな単位と関わるエスニシティ、地域主義などの現況を考察する。先進国と開発途上国の格差、先進諸国内での格差、地球的規模での環境問題、文化摩擦や民族紛争、冷戦構造の崩壊と資本主義の世界化の問題等のキーテーマを扱う。

■基礎演習

233301 基礎演習（社会学）

【到達目標】

- ・社会学的な問いと回答の試みとはどのようなものかについて入門レベルの理解を固める。
- ・社会学を学ぶために必要な基礎的アカデミックスキルを身につける。

【概要】 社会学という学問の基礎的な概念枠組みについて、入門レベルの学習を進める。社会学の諸領域と関わる社会問題と、社会学のさまざまな考え方、方法などを照らし合わせることで、社会学的視点を演習形式で学ぶ。あわせて、自主的な学習を前提とした報告や討論による演習形式での講義を通じて、大学で社会学を学んでいくために必要な学習の技法（研究発表の仕方、質疑・応答や討論の行い方、文献や資料などの集め方、調べ方など）を習得する。

233302 2年次演習（社会学）Ⅰ

【到達目標】

- ・社会学的な問いと回答の試みとはどのようなものかについて基礎レベルの理解を固める。
- ・学びを深めるとともに演習メンバーとして役割を果たすために必要なアカデミックスキルを伸ばす。

【概要】 社会学的なものの見方・考え方について、1年次に学んだ社会学の基礎知識を前提とし、また2年次に学ぶ社会学史の知識と照らし合わせながら、自主的な発表、討論などによる演習形式で学習する。演習では、社会学的な発想法の特徴を実例を交えつつ理解し、個人の行為から社会の構造に至るさまざまな社会学の基礎概念および理論枠組、方法論などを総合的に身につけることを目指す。あわせて、学びを深めるとともに演習メンバーとして役割を果たしていくために必要なアカデミックスキル（効果的なプレゼンテーションのしかた、学術的な文章の書き方、討論の進め方（聴きかた、話しかた、とりまとめかた））を伸ばす。

233303 2年次演習（社会学）Ⅱ

【到達目標】

- ・社会学のさまざまな領域における問いと回答の試みについて理解を深める。
- ・学びを深めるとともに十全な演習メンバーとなるために必要なアカデミックスキルを伸ばす。

【概要】 総論的な社会学の知識を前提にし、社会学的なものの見方、考え方について、社会学の各論領域のさまざまなテーマを取り上げながら、自主的な発表、討論などによる演習形式で学習する。現代社会の具体的な諸現象、社会問題を題材とし、家族、都市・地域、学校・教育、経営・労働、福祉、社会意識・文化・メディア、国際社会といった社会学の各論的な広がり学ぶ。あわせて、学びを深めるとともに演習メンバーとして十全な役割を果たし

ていくために必要なアカデミックスキル（口頭発表、論文、討論などにおける理論構成・展開、論証などに関するスキル）を伸ばす。

■ 発展演習

233401 社会調査実習 I

【到達目標】

- ・ 専攻領域に即した社会調査の意義を理解する。
- ・ 社会調査を計画立案する力をつける。
- ・ 社会調査の計画立案および実施の実際を体得する。

【概要】 社会学、経済学、国際関係という各々の専攻領域において社会調査を行う意義、各専攻領域で採用される調査方法の概要などについて、実習形式で学ぶ。それぞれの専攻領域における調査研究の方法論、調査報告書などの先行研究を読み解き、調査計画の立案、調査票の設計などをめぐる考え方を確認した上で、実際に調査を計画立案し、調査票等を設計する。

233402 社会調査実習 II

【到達目標】

- ・ (質的調査法について) 聴き取り、観察、文書資料の解読などの実際を体得する。
- ・ (量的調査法について) データ収集、集計、分析などの実際を体得する。
- ・ 調査結果を分析し、報告書を作成する力をつける。

【概要】 社会学、経済学、国際関係という各々の専攻領域における調査研究の理念、方法などの理解に基づき社会調査実習 I で立案された調査計画、設計された調査票をもとに調査を実施し、データ整理・分析を行う。採用する調査方法（量的調査法、質的調査法など）の特徴を理解し、調査対象の選定、調査の実施、コード化と集計、結果の解釈、報告書の作成などの実際について実習形式で学ぶ。自ら質問紙調査、聞き取り調査などを経験することで、社会調査の方法を卒業論文研究に用いるための準備とする。

233403 3年次演習（社会学） I

【到達目標】

- ・ 特定領域の主要論点および研究状況、これまでの知見を理解する。
- ・ 学びを深め、演習の効果を一層高めるために必要なアカデミックスキルを伸ばす。

【概要】 「3年次演習（社会学） I」では、2年次までの「社会学概論」「社会学史」「社会調査法」などを通じて身につけた社会学の研究を進めるにあたって必須となる基礎知識を踏まえ、さらなる展開をはかる。社会学の多種多様な研究分野の中から自らの専攻領域を決め、その領域における特徴的な社会学的思考法について、テキストの精読や自主的な研究発

表、およびそれをめぐる討論などの演習形式で学ぶ。あわせて、学びを深めるとともに演習の効果を一層高めるために必要なアカデミックスキルを伸ばす。

233404 3年次演習(社会学)Ⅱ

【到達目標】

- ・ 特定領域の主要論点および研究状況、これまでの知見を理解する。
- ・ 卒業研究に必要な準備を整える。
- ・ 学びを深め、演習の効果を一層高めるために必要なアカデミックスキルを伸ばす。

【概要】 「3年次演習(社会学)Ⅰ」で選択した専攻領域の概要を踏まえながら、それぞれの領域における代表的な先行研究の展開、基本的な研究主題、研究方法などについて、テキストの精読や自主的な研究発表、およびそれをめぐる討論などによる演習形式で学習する。さらに、4年次における卒業論文制作を視野に入れて、基礎知識の習得に加え、専攻領域で卒業研究をすることの意味という理念的側面、および社会調査法・文献研究法など方法的側面の双方について学びながら、卒業論文制作の準備を行う。あわせて、学びを深めるとともに演習の効果を一層高めるために必要なアカデミックスキルを伸ばす。

233405 4年次演習(社会学)Ⅰ

【到達目標】

- ・ 独自の研究を計画立案する力、および計画に基づき研究を進める力を養う。
- ・ 相互の研究報告に対してコメントする力を伸ばす。
- ・ フィードバックを受けながら計画を調整し遂行する力を養う。

【概要】 3年次に選択した専攻領域の基礎知識を踏まえながら、同一の専攻領域における各々の研究課題の設定、および研究設計の手がかりとなる応用的知識について学ぶ。4年次前期に確定した卒業論文の題目に基づいて学生自身が主体的に卒業論文を完成させるために必要な知識と方法を、自主的な発表、討論などの演習形式で学ぶ。

233406 4年次演習(社会学)Ⅱ

【到達目標】

- ・ 研究の知見を論文としてまとめる力を養う。
- ・ 相互の研究に対してコメントする力を伸ばす。
- ・ 研究を総括し今後の課題を考える力を養う。

【概要】 「4年次演習(社会学)Ⅰ」で計画立案した研究課題・研究設計を踏まえて、各自の研究主題に沿った研究発表を行う。研究の構想、問題の設定、先行研究レビュー、理論構成や理論展開、目次立て、分析方法、行論などについて、よりよい論文となるよう相互にフィードバックを行う。発表や討論を重ねることで、卒業論文の内容の深化をはかるとともに、あわせて論文執筆のための技法を具体的に学ぶ。

コミュニティ構想専攻

■入門

234001 コミュニティ構想論

【到達目標】

- ・グローバル化時代の社会問題の概要をつかむ。
- ・社会問題の解決にコミュニティ構想論を活かす方法を学ぶ。
- ・学際的に社会科学の考え方を運用できる。

【概要】 人と人とのよき結びつきとしての well-being の形成という広義コミュニティ創造の課題と向かい合い、一人一人の生活圏の問題を基礎にして、社会諸科学の知識を学際的に運用しながら、新しい社会の構想を社会科学的に考察する。家族、地域、学校、職場、国民国家、国際社会などさまざまな文脈のなかで、グローバル化という変動を踏まえて、人生においてできること、なれるものの選択肢をひろげるための人的能力の育成を可能にするようなコミュニティ構想を行うための基礎を学ぶ。

234002 コミュニティ政策論

【到達目標】

- ・グローバル化時代の社会問題の概要をつかむ。
- ・問題解決に社会科学の政策論を運用する方法を学ぶ。
- ・政策的な問題解決の現状について、事例的な理解を得る。

【概要】 人と人とのよき結びつきとしての well-being の形成という広義のコミュニティ創造の課題と向かい合い、解決してゆくための政策論的な知識を学ぶ。社会科学の知識と方法に基づき社会問題を認識し、その解決のため地球市民として社会参加を行い、リーダーシップを発揮し、コミュニティという理念を政策的に実現してゆくためにはどうしたらよいか、人生においてできること、なれるものの選択肢をひろげるための人的能力の育成はどうしたら可能か、それにはどのような社会科学的な知識が必要かを学ぶ。

234003 コミュニティとジェンダー

【到達目標】

- ・広義のコミュニティ概念が社会科学的に理解できる。
- ・コミュニティとの関わりでジェンダーの基本問題が理解できる。
- ・問題解決のためにジェンダーの視点を導入する意義について理解できる。

【概要】 人と人とのよき結びつきとしての well-being という広義のコミュニティを創造すること（よき人生を創造すること、よき知識を獲得すること、よき暮らしを保つために必要

な資源を入手すること、そして地域社会における活動に参加すること)に、ジェンダー論の知識と方法を生かすための基礎を学ぶ。自己のアイデンティティ、家族、地域、学校、職場、国民国家、国際社会などさまざまな生の文脈のなかで、女性が直面する諸問題、それを社会科学的方法で分析するためのジェンダー論的な視点を学ぶ。

234004 グローバル共生とコミュニティ

【到達目標】

- ・グローバル共生と関わるキーワードを理解できる。
- ・キーワードを解明するための基本用語が理解できる。
- ・基本用語を手がかりに、社会科学の考え方を学際的に動員して事例考察ができる。

【概要】 グローバル化という変動のなかにあるコミュニティについて学ぶことを課題とする。共生、平和、福祉などの理念をめぐる現代的な諸問題について、国際関係、国際交流をめぐるさまざまな視点を動員して学ぶ。ツーリズム、余暇、レジャー、消費、ホスピタリティなどの社会科学的知見に学びながら、ジェンダー論、環境問題論、共生学などが扱ってきた主題を考察することで、グローバル化するコミュニティのあり方について総論的に考察し、コミュニティ創造にグローバル共生の視点を生かす方法を学ぶ。

■基礎講義

234101 コミュニティと文化

【到達目標】

- ・グローバル化による社会の再編、文化の再編にかかわる社会科学的な知見を理解する。
- ・社会文化論のキーワードについて知識を得る。
- ・文化変動の現況について事例的な考察ができる。

【概要】 人と人とのよき結びつきとしての well-being の形成という広義のコミュニティ創造の課題と向かい合い、解決してゆくための社会文化論的な知識を学ぶ。グローバル化という変動のなかで、人間の信頼や安心、親密性など、コミュニティの道徳や倫理と関わる価値が再編されつつある。こうした文化変動の概要はどのようなものか、ポピュラー文化、メディア文化、消費文化、ビジネス文化、経営文化など具体的な事例を取り上げながら、社会科学的方法で考察を行う。

234102 コミュニティと情報メディア

【到達目標】

- ・グローバル化による社会の再編、文化の再編にかかわる情報メディア論的な知見を理解する。
- ・情報メディア論のキーワードについて知識を得る。

- ・地域メディアの現況について事例的な考察ができる。

【概要】 人と人とのよき結びつきとしての well-being の形成という広義のコミュニティ創造の課題と向かい合い、解決してゆくための情報メディア的な知識を学ぶ。グローバル化と情報化という変動のなかで、コミュニティと情報メディアのあり方も変化している。テレビ、ラジオその他の地域メディア、インターネットの発達にともなう SNS などのコミュニケーション手段、コミュニティ紙などなどの現状と問題、そして可能性について例解し、コミュニティ創造に情報メディア論の視点を生かす方法を学ぶ。

234103 ジェンダーと法

【到達目標】

- ・法におけるジェンダー・バイアスが理解できる。
- ・女性に対する人権保障の発展とその到達点を理解する。
- ・現代の女性にとって必要な法およびジェンダー平等に関する法の基礎知識を得る

【概要】 ジェンダーをめぐる法状況について、具体的事例を通して考察する。ジェンダーの視点からみた法制度の偏りを理論的に理解した上で、家庭、財産、教育、労働、犯罪など市民生活の諸領域をめぐる法制度の現況について、事例を挙げながら概観する。中立・公正であるべき法にジェンダーをめぐる偏りがあり、法の立法・解釈・運用がジェンダー・バイアスに基づいて行われてきたことを学び、そして差別的取扱いを是正する方法について考えることを通じて、コミュニティ構想と法の関連について理解を深める。

234104 市民参加と法

【到達目標】

- ・市民参加と関わる関連法規の概要を知る。
- ・市民参加と関わる法律問題のキートピックを理解する。
- ・市民参加におけるリーガルマインドについて理解する。

【概要】 ひとづくり、ものづくり、まちづくり、暮らしづくり、職場づくり、政治参加、国際協力、平和貢献など、現代人が市民参加の現場において出会う法律的な諸問題の概要を学ぶ。グローバル化という社会変動なども視野に入れながら、市民参加と関わる法制度の成立、展開、今後の見直しなどの社会的な背景を、コミュニティ構想の観点から学んでゆく。条文や法解釈の方法に特化するのではなく、コミュニティ実践のなかで出会う法的な問題を知り、法律的な知識を参照する方法について学ぶ。

234105 余暇ツーリズム論

【到達目標】

- ・ツーリズム概念が理解できる。
- ・余暇ツーリズムの問題の拡がり、キートピックが理解できる。

・分析のキーワード、そこにおける社会科学の連携状況についての知識を得る。

【概要】 経営学、観光学、社会学など社会科学の諸領域と関わるツーリズムの概念を確認したあと、余暇、消費、観光、まちづくり、地域共生、開発、国際協力など、社会科学的なキーワードを概観する。グローバル化する地域社会に存在するさまざまな固有のコミュニティ資源を動員し、地域コミュニティを主体として展開されるツーリズムとコミュニティ構想との関連を考察する。こうした基本視点に照らしながら、余暇ツーリズムと関わるキーワードを概観する。

234106 ツーリズムとジェンダー

【到達目標】

- ・ジェンダーの観点から問題になるツーリズムのキーワードを理解する。
- ・ツーリズムにおける女性の視点について社会科学的に理解する。
- ・ジェンダーとツーリズムについてのキーワードを理解する。

【概要】 ツーリズム、観光開発などによる、地域資源の動員の影響、エンパワーメントなどに男女差があること、ツーリズムをめぐる利益配分などにおいてもジェンダー格差があること、さらにツーリスト側の行動にもジェンダー差があることなど、ツーリズムにおけるジェンダーの問題を理解する。そして、ツーリズムと女性の視点の関わり、観光の問題に女性の視点を活かすということの意味などについて考察する。グローバル化が、女性の暮らし、家族、仕事、人生などにおよぼす影響などに注目しながら、ツーリズムのキーワードを概観する。

234107 コミュニティ計測法基礎

【到達目標】

- ・統計学の基本的な考え方を理解できる。
- ・統計データをまとめたり分析したりすることができる。
- ・統計を扱うための基本的なリテラシーを理解できる。

【概要】 コミュニティ構想と関わる統計データを用いながら、入門レベルの統計学を、統計データを整理し、実際に統計のとりあつかいができるように解説する。公的統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識を得る。単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた。さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方、相関係数など基礎的統計概念、因果関係と相関関係の区別、擬似相関の概念などを学ぶ。

234108 実践的研究計画法(研究計画)

【到達目標】

- ・各種科目の概要を知り、体系的な学びを計画することができる。

- ・専門外の科目なども交えた学びを計画することができる。
- ・学びのリテラシーを理解することができる。

【概要】 専門科目の履修、主題化の方法、勉学の進め方などについて、ワークショップ形式で学ぶことで、教養の知と実践の知を結びつけるための手がかりとする。実践的研究計画法（研究計画）では、研究計画の立て方、その総括のしかたについて学ぶ。

1年生は、1年前期の学びの上に、2年次以降の学びをどう構成するか、について計画を練る。互いの学びを確認し合い、学びの現状をチェックする。さらに上級生や教員などへのヒアリングなどをもとに、学びの計画をたてる。

4年生は、これまでの学びを総括し、省察する。

234109 実践的研究計画法(研究構想)

【到達目標】

- ・各種科目の概要を知り、体系的な履修計画を構想することができる。
- ・専門外の科目なども交えた学びを計画することができる。
- ・学びのリテラシーを理解することができる。

【概要】 専門科目の履修、主題化の方法、勉学の進め方などについて、ワークショップ形式で学ぶことで、教養の知と実践の知を結びつけるための手がかりとする。実践的研究計画法（研究構想）では、研究構想の立て方、その総括のしかたについて学ぶ。

1年生は、1年前期の学びの上に、2年次以降の学びをどう構成するか、について計画を練る。互いの学びを確認し合い、学びの現状をチェックする。さらに上級生や教員などへのヒアリングなどをもとに、学びの構想を練る。

4年生は、これまでの学びを総括し、省察する。

■応用講義

234201 コミュニティと心理学

【到達目標】

- ・コミュニティ心理学のキー概念の知識を得る。
- ・コミュニティ心理学のキートピックの知識を得る。
- ・コミュニティ心理学の方法を使って事例的な分析ができる。

【概要】 人と人とのよき結びつきとしての well-being の形成という広義のコミュニティ形成の問題を、「人間と環境との適合性」など心理学的な観点から捉え直し、公衆衛生学、産業組織心理学や社会システム論、臨床心理学などに見られるコミュニティ援助の成果にも触れながら、コミュニティ心理学を学ぶ。コミュニティで直面する問題とその解決の実践例を取り上げながら、コミュニティで生活し、そのコミュニティに適応するためにどのような援助や支援が必要なのかを学ぶ。さらに、予防、コンサルテーション、危機介入といったコ

コミュニティ心理学のキーワードについても言及する。

234202 コミュニティとリーダーシップ

【到達目標】

- ・組織・集団・ネットワークとリーダーシップをめぐる社会科学的なキーワードを理解できる。
- ・組織・集団・ネットワークとリーダーシップをめぐるキーワードを理解できる。
- ・コミュニティ論の観点から、組織・集団・ネットワークとリーダーシップの議論を考えることができる。

【概要】 心理学、社会学、政治学、経営学の領域において蓄積されてきたリーダーシップ研究の成果を用いて、多様な人々を包摂するよりよい共生社会を目指したコミュニティを形成するために求められるリーダーシップについて学ぶ。コミュニティ内には多様なアクターが存在するが、その間に豊かなソーシャル・キャピタルを形成するために必要なモチベーション、マネジメント、意思決定、グループダイナミクス、イノベーション、ネットワーク形成、情報発信について考察していく。

234203 ソーシャル・キャピタル論

【到達目標】

- ・ソーシャル・キャピタル概念の社会科学的な意義を理解できる。
- ・考え方の主要な応用例についての概説的知識をもつ
- ・具体的な事例について、ソーシャル・キャピタルの視点から分析できる。

【概要】 信頼、道徳、規範、習慣、ネットワークなどのさまざまな人と人とのつながりをあらわすソーシャル・キャピタル概念を、コミュニティ構想、コミュニティ資源という観点から考える。資源動員の実践の現況について概観し、福祉、教育、政治、企業経営など、さまざまな社会科学の問題との関わりで論じられているソーシャル・キャピタルの主要キーワードを理解する。さらに、コミュニティ実践、国際比較の視点を踏まえつつ、事例的分析、考察を行う。

234204 ソーシャル・サポート

【到達目標】

- ・ソーシャル・サポートと関わるキーワードを理解する。
- ・ソーシャル・サポートと関わるキーワードを理解する。
- ・地域実践としてのケア、サポートをするためのリテラシーを体得する。

【概要】 ソーシャル・サポートの制度やシステムについて概説し、人が生まれ、育ち、生活し、高齢となって人生の終わりを迎えるコミュニティにおいてどのようなサポートが必要か、また当事者としてどのようなサポートに参画することができるのか、その理念と方法

を実践的に学んでいく。特に地域社会におけるケアやサポートの現状と課題、住民ネットワークや共同活動の重要性、資源開発、エンパワーメントなどについて学ぶ。そして、一人一人が地域社会の一員として、職業やボランティアを通し、地域において活動を主体的に展開していくための基礎的な力を身につける。

234205 公共生活と法

【到達目標】

- ・公共生活と関わる関連法規の概要を知る。
- ・公共生活と関わる法律問題のキートピックを理解する。
- ・公共コミュニティにおけるリーガルマインドについて理解する。

【概要】 現代人が生活圏で直面する法的な問題、その背景にある社会構造の問題、公共社会におけるその解決の方法などについて学ぶ。家族、地域、人権、職業、余暇や消費、ビジネス、子育てや教育、非行や犯罪、福祉、社会参加などの生活諸領域における法律的なキートピックを概観し、公共社会における問題の解決に法制度がどう関わるか、グローバル化という社会変動にともなうコミュニティ形成の再検討のなかで、どのような法制度の修正、拡充が求められているかなどを例解する。それを通じて公共コミュニティにおいて必須の教養としてのリーガルマインドを実践的に育む。

234206 まちづくりと法

【到達目標】

- ・まちづくりと関わる関連法規の概要を知る。
- ・まちづくりと関わる法律問題のキートピックを理解する。
- ・まちづくりにおけるリーガルマインドについて理解する。

【概要】 まちづくりの基本となる「中心市街地活性化法」「大店立地法」「都市計画法」といういわゆる「まちづくり三法」をはじめとする、関連法規の体系について学ぶ。関連する暮らし、産業、市民参加などに関わる法制度との関連を重視しながら、まちづくりと関わる法制度の成立、展開、今後の見直しなどの社会的な背景を、コミュニティ構想の観点から学んでゆく。条文解釈、法解釈の方法に特化するのではなく、コミュニティ実践のなかで出会う法的な問題を知り、法律的な知識を参照する方法について学ぶ。

234207 地域共生とツーリズム

【到達目標】

- ・共生社会から問題になるツーリズムのキートピックを理解する。
- ・ツーリズムにおける地域共生という視点について社会科学的に理解する。
- ・公正性、経済性、戦略性などといった考え方を地域共生に活かすことができる。

【概要】 自然環境をはじめとする地域資源の活用をめぐる見解の対立、そしてエコツーリ

ズム、コミュニティ・ツーリズム、格差とツーリズム、サステイナブル・ツーリズムなど、ツーリズムと地域共生をめぐる諸概念を整理したうえで、地域共生とツーリズムについてのキートピックを概観する。一方で環境共生をはじめ、エスニシティ、ジェンダーやセクシャリティ、社会格差をめぐる地域共生、コミュニティ創造とツーリズムの関わりについて理解する。他方で自然資源の動員、ツーリズムにおける商業性、経済性、戦略性、イノベーション、ブランディングなどのトピックを考察する。

234208 地域共生とイノベーション

【到達目標】

- ・共生社会形成、コミュニティ形成と関わるイノベーションのキートピックを理解する。
- ・イノベーションと地域共生という視点について社会科学的に理解する。
- ・イノベーションの精神を地域実践に活かすための方法を知る。

【概要】 グローバル化という変動のなかで、人間の暮らしや生活を支える社会制度がゆらぐことで、問い直されている「つながり」のあり方、そこにおける人と人、人と自然などの共生の問題、well-beingとしての福祉、平和の問題など、よき状態としてのコミュニティの問題について、イノベーションの観点から考察する。ひとづくり、ものづくり、まちづくり、暮らしづくり、職場づくりなどコミュニティ実践において、人生においてできること、なれるものの選択肢をひろげるための人間開発、コミュニティ形成におけるイノベーションの問題を考察する。

234209 コミュニティとリスク

【到達目標】

- ・災害など現代社会のリスクと関わるキートピックを理解できる。
- ・キートピックを解明するための基本用語が理解できる。
- ・基本用語を手がかりに、社会科学の考え方を学際的に動員して事例考察ができる。

【概要】 グローバル化という変動のなかにあるコミュニティが直面する災害をはじめとするさまざまなリスクという問題について社会科学的に考察する。共生、平和、福祉などの理念をめぐる現代的な諸問題について考える場合、リスクという考え方は非常に重要なものとなっている。都市防災論、都市計画論、リスク社会論、さらにはジェンダー論、環境問題論、共生学などが扱ってきたキートピックの例解を通して、リスクの考え方についての基礎を学ぶ。

234210 ホスピタリティ論

【到達目標】

- ・共生社会形成、コミュニティ形成と関わるホスピタリティ論のキートピックを理解する。
- ・ホスピタリティと地域共生という視点について社会科学的に理解する。

・ホスピタリティの精神を地域実践に活かすための方法を知る。

【概要】 多様なひろがりを見せるホスピタリティ概念の語源や実践的な展開の理解の上に立ち、キートピックを概観する。グローバル化する社会のなかのさまざまな固有のコミュニティ資源に着目しながら、ホスピタリティ実践の現状について、代表的な実践事例により理解する。それを通じて、地域社会におけるケアやサポート、住民ネットワークや共同活動、サービス産業、観光、国際支援などの事例を取り上げ、コミュニティ形成の実践との関わりを考える。またそれぞれのキャリア形成、エンパワーメント、地域貢献、国際貢献などとの関わりにおけるホスピタリティの問題を考える。

234211 コミュニティ・デザイン論

【到達目標】

- ・コミュニティ・デザイン論のキートピックを理解する。
- ・コミュニティ・デザインという視点について社会科学的に理解する。
- ・コミュニティ・デザインの考え方を地域実践に活かすための方法を知る。

【概要】 グローバル化という変動のなかで、人間の暮らしや生活を支える社会制度がゆらぐことで、問い直されている「つながり」のあり方の構想、デザインの問題を総論的に考察する。ひととひとの「つながり」がどのように形成され、変化してきたのかをたどり、現代における新たな「つながり」の可能性を考えてきた社会科学の歴史と現状を概観する。その上でひとづくり、ものづくり、まちづくり、暮らしづくり、職場づくりなどコミュニティ実践の問題を、「つながりのデザイン」の問題として捉え、事例的に考察してゆく。

234212 グローバル化とまちづくり

【到達目標】

- ・世界都市論の考え方を理解する。
- ・グローバル化のなかの地域変動について理解する。
- ・さまざまな社会問題とまちづくりの関連を理解する。

【概要】 グローバル化という変動のなかで、人間の暮らしや生活を支える社会制度がゆらぐことで、問い直されている「つながり」のあり方の構想、デザインの問題を考察する。ひととひとの「つながり」がどのように形成され、変化してきたのかをめぐる社会科学的な知見を手がかりとして、世界都市や地方都市を舞台としたまちづくりといの問題を、「つながりのデザイン」というコミュニティ実践の問題として捉え、事例的に考察してゆく。

234213 世界遺産学 A

【到達目標】

- ・講義でとりあげた日本・アジア圏の世界遺産の歴史的背景や文化的意義について基礎的な知識を習得する。

- ・講義でとりあげた世界遺産の保護と活用をめぐる諸問題について基礎的な知識を習得する。

- ・世界遺産学で用いられる多様なアプローチの方法を理解する。

【概要】 日本・アジア圏の世界遺産をいくつかとりあげて、それらの歴史的背景や文化的意義、保護と活用をめぐる諸問題について論じる。こうした論点から世界遺産の過去と現在を理解して将来を展望するためには、人文学・社会科学・自然科学にまたがる学際的な知見に加えて、異文化理解や国際協力といった国際的視野も求められる。この講義では、世界遺産を学ぶうえで必要となる多様なアプローチの方法について紹介しつつ、とくに歴史学とツーリズムを切り口にして、世界遺産をめぐる諸問題への理解を深める。

234214 世界遺産学 B

【到達目標】

- ・講義でとりあげた欧米圏の世界遺産の歴史的背景や文化的意義について基礎的な知識を習得する。

- ・講義でとりあげた世界遺産の保護と活用をめぐる諸問題について基礎的な知識を習得する。

- ・世界遺産学で用いられる多様なアプローチの方法を理解する。

【概要】 欧米圏の世界遺産をいくつかとりあげて、それらの歴史的背景や文化的意義、保護と活用をめぐる諸問題について論じる。こうした論点から世界遺産の過去と現在を理解して将来を展望するためには、人文学・社会科学・自然科学にまたがる学際的な知見に加えて、異文化理解や国際協力といった国際的視野も求められる。この講義では、世界遺産を学ぶうえで必要となる多様なアプローチの方法について紹介しつつ、とくに歴史学とツーリズムを切り口にして、世界遺産をめぐる諸問題への理解を深める。

234215 コミュニティ調査法 A

【到達目標】

- ・社会調査リテラシーの基礎を身につける。

- ・リテラシーに基づいた調査能力の基礎を養う。

- ・社会調査の方法と実施の概要を知る。

【概要】 コミュニティ構想のための社会科学の特徴は、コミュニティに対する研究者の価値関心、コミュニティを説明する理論、コミュニティを把握する調査方法の三者が密接に関係している点にある。この講義では、コミュニティ調査の古典的なモノグラフィをいくつか紹介しながら、そうした関係について理解を深めることを目的とする。社会科学と社会調査の関係について、学説史的に概説した後、計量的社会調査と非計量的社会調査、フィールドワークの可能性と限界、調査者と被調査者の関係、個人の歴史と社会の歴史を重ね合わせること、価値関心に導かれた社会調査、政策形成に貢献する社会調査などについて概説する。

234216 コミュニティ調査法B

【到達目標】

- ・コミュニティ調査の計画立案方法を理解する。
- ・実査の概略を理解する。
- ・調査票を作成できる。
- ・調査結果の基本的な分析ができる。

【概要】 コミュニティに関わる社会科学的な社会調査の方法のうち、調査票を用い、サンプリングを施した計量的社会調査の方法と実施上の諸問題について解説する。実際の調査の構想、設計、実施、分析までの一連のプロセスにそって学んでいくことを通して、受講者が卒論などで自ら計量的社会調査を実施できるようになることをめざす。調査の構想と調査票の作成、サンプリングと調査実施の手順、調査実施の諸方法と諸問題、コーディングとデータクリーニング、集計結果の解析の基礎などを概説したあと、計量的社会調査の代表的先行研究を読むことで総括を行う。

234217 コミュニティ計測法A

【到達目標】

- ・推測統計学の基本的な考え方を理解できる。
- ・統計データをまとめたり分析したりすることができる。
- ・統計を扱うための基本的なリテラシーを理解できる。

【概要】 統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、推測統計学の基礎的な知識を学ぶ。コミュニティ構想と関わる統計データを用いながら、推測統計学の基礎を用いて、統計データを整理し、実際に統計処理ができるよう、演習問題を解きながら解説する。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）、サンプリングの理論、属性相関係数（クロス表の統計量）、相関係数、偏相関係数、変数のコントロール、回帰分析の基礎などを学ぶ。

234218 コミュニティ計測法B

【到達目標】

- ・多変量解析の基本的な考え方を理解できる。
- ・多変量解析の手法によりデータをまとめたり分析したりすることができる。
- ・統計を扱うための基本的なリテラシーを理解できる。

【概要】 コミュニティ構想と関わる統計データを用いながら、多変量解析の方法によって、統計データを整理し、実際に統計処理ができるよう、演習問題を解きながら解説する。重回帰分析を基本としながら、他の計量モデル（たとえば、分散分析、パス解析、ログリニア分析、ロジスティック回帰分析、因子分析、数量化理論、マルチレベル分析など）の中か

ら若干のものをとりあげる。

234219 都市フィールドワーク

【到達目標】

- ・都市フィールドワークと関わる質的調査方法の概要を理解する。
- ・研究課題と研究方法の関係を適切に判断し、選択することができる。
- ・既存の研究論文を批判的に検討し、自らの研究計画を立てられる。

【概要】 都市フィールドワークの学問的位置づけ、コミュニティ研究との関わり、現代のまちづくりなどとの関わりにおける学問的な意義などについて学ぶ。都市フィールドワークを中心としながらも、参与観察法、ライフヒストリー分析などの質的データの分析法（質的データ分析ソフトの使用方法を含む）などの活用も視野に入れ、都市フィールドワークへの応用を考える。社会調査の一般的類型とされている「量的調査と質的調査」の特徴を理解したうえで、(1)データの性質、(2)データの収集方法、(3)データの分析方法といった側面から、質的調査法の特性と課題を解説する。

■基礎演習

234301 基礎演習（コミュニティ構想）

【到達目標】

- ・コミュニティ構想をめぐる学際的、実践的問いと、それに答える試みとは何を核とし、どのようなひろがりをもつかを理解する。
- ・文献講読、資料収集、報告、ディスカッション、レポート作成の基礎的スキルを習得する。

【概要】 コミュニティ構想専攻の基礎的な学びの枠組みについて、入門レベルの学習を進める。社会科学の諸領域と関わるコミュニティ創造の実践的課題と、社会科学のさまざまな考え方、方法などを照らし合わせ、事例的な考察をすることで、入門的な演習を行う。同時に、自主的な学習を前提とした報告や討論による演習形式での講義を通じて、大学で社会科学を学んでいくために必要な学習の技法を習得する。たとえば、研究発表の仕方、質疑・応答や討論の行い方、文献や資料などの集め方、調べ方などである。

234302 2年次演習（コミュニティ構想）Ⅰ

【到達目標】

- ・コミュニティ構想と関わる社会科学的なキー概念を理解する。
- ・キー概念とコミュニティ構想のキートピックの関わりを理解する。
- ・ゼミを通して、討論やレポートのスキルを高める。

【概要】 社会科学的なものの見方・考え方について、1年次に学んだコミュニティ構想をめぐる社会科学の基礎知識を前提とし、また2年次に学ぶ専門科目の知識と照らし合わせな

から、自主的な発表、討論などによる演習形式で学習する。演習では、学際的、実践的な発想法の特徴を実例を交えつつ理解し、社会学、心理学、政治学、法学などに渡るさまざまな社会科学の基礎知識を総合的に身につけることを目指す。同時に、効果的な口頭発表（プレゼンテーション）のやり方、学術的な文章の書き方、討論の進め方（聴きかた、話しかた、とりまとめかた）について訓練を行う。

234303 2年次演習（コミュニティ構想）Ⅱ

【到達目標】

- ・コミュニティ構想と関わるキートピックを理解する。
- ・社会科学の各領域におけるコミュニティ構想研究の概況を理解する。
- ・さまざまな事例について、社会科学の知識を運用し、学際的、実践的に討論することができる。

【概要】 コミュニティ構想と関わる総論的な知識を前提にし、社会科学的なものの見方、考え方を学際的に運用し、コミュニティ構想各論領域のさまざまなテーマを取り上げながら、自主的な発表、討論などによる演習形式で学習する。現代社会のキートピックを題材とし、自己形成、キャリア開発、市民参加、ケアやサポート、経営とイノベーション、行政法制度、共生とツーリズムなどの各論的な広がり学ぶ。同時に、口頭発表、論文、討論などにおける理論構成、理論展開、論証方法などをめぐる各論領域ごとの特徴を概観する。

■発展演習

234401 社会調査実習Ⅰ

【到達目標】

- ・専攻領域に即した社会調査の意義を理解する。
- ・社会調査を計画立案する力をつける。
- ・社会調査の計画立案および実施の実際を体得する。

【概要】 社会学、経済学、国際関係という各々の専攻領域において社会調査を行う意義、各専攻領域で採用される調査方法の概要などについて、実習形式で学ぶ。それぞれの専攻領域における調査研究の方法論、調査報告書などの先行研究を読み解き、調査計画の立案、調査票の設計などをめぐる考え方を確認した上で、実際に調査を計画立案し、調査票等を設計する。

234402 社会調査実習Ⅱ

【到達目標】

- ・（質的調査法について）聞き取り、観察、文書資料の解読などの実際を体得する。
- ・（量的調査法について）データ収集、集計、分析などの実際を体得する。

- ・調査結果を分析し、報告書を作成する力をつける。

【概要】 社会学、経済学、国際関係という各々の専攻領域における調査研究の理念、方法などの理解に基づき社会調査実習Ⅰで立案された調査計画、設計された調査票をもとに調査を実施し、データ整理・分析を行う。採用する調査方法（量的調査法、質的調査法など）の特徴を理解し、調査対象の選定、調査の実施、コード化と集計、結果の解釈、報告書の作成などの実際について実習形式で学ぶ。自ら質問紙調査、聞き取り調査などを経験することで、社会調査の方法を卒業論文研究に用いるための準備とする。

234403 コミュニティ拠点実習（キャリア構想）

【到達目標】

- ・キャリア構想、キャリアデザインとかかわる基本的な知識を踏まえ、それを課題解決型の学習課題として組み立てることができる。
- ・研究主題についての報告、討論をすることができる。
- ・課題解決型学習を行った成果を、報告書にまとめることができる。

【概要】 これまで履修したコミュニティ構想専門科目などを通じて身につけた社会科学的な知識に基づき、学際的、実践的な知識を深め、能動的な問題解決型の授業も取り入れ、勉学のさらなる展開をはかる。この授業では、人生設計、キャリアデザイン、エンパワーメントなどに関わるキャリア実践について検討を行う。さらに、より発展的な拠点実習科目（キャリア実践、地域実践）の履修内容を視野に入れて、基礎知識の習得に加え、専攻領域で卒業研究をすることの意味という理念的側面、実践のリテラシーについて学ぶ。

234404 コミュニティ拠点実習（キャリア実践）

【到達目標】

- ・キャリア構想とかかわる実践的な知識を踏まえ、それを課題解決型の学習課題をよりスペシフィックなものに錬成することができる。
- ・キャリア構想と関わる授業外学習のための学習計画を立てることができる
- ・課題解決型学習を行った成果を、報告書にまとめることができる。

【概要】 これまで履修したコミュニティ構想専門科目などを通じて身につけた社会科学的な知識に基づき、学際的、実践的な知識を深め、勉学のさらなる展開をはかる。この授業では、人生設計、キャリアデザイン、エンパワーメントなどに関わるキャリア実践について、時間外に独自に行ったインターンシップなどの自発的な学習成果も採り入れながら、ワークショップ形式の授業なども取り入れ成果をまとめる。さらに、卒業論文や就職活動なども視野に入れて、基礎知識の習得に加え、専攻領域で卒業研究をすることの意味という理念的側面、実践のリテラシーについて学ぶ。

234405 コミュニティ拠点実習（地域構想）

【到達目標】

- ・地域構想、地域デザインとかかわる基本的な知識を踏まえ、それを課題解決型の学習課題として組み立てることができる。
- ・研究主題についての報告、討論をすることができる。
- ・課題解決型学習を行った成果を、報告書にまとめることができる。

【概要】 これまで履修したコミュニティ構想専門科目などを通じて身につけた社会科学的な知識に基づき、学際的、実践的な知識を深め、勉学のさらなる展開をはかる。この授業では、地域参加、まちづくり、ケアやサポート、ホスピタリティ、国際協力などに関わるキャリア実践について、問題の立て方、解決の仕方などを学ぶ。さらに、より発展的な拠点実習科目（キャリア実践、地域実践）の履修内容を視野に入れて、基礎知識の習得に加え、専攻領域で卒業研究をすることの意味という理念的側面、実践のリテラシーについて学ぶ。

234406 コミュニティ拠点実習（地域実践）

【到達目標】

- ・地域構想とかかわる実践的な知識を踏まえ、それを課題解決型の学習課題をよりスペシフィックなものに錬成することができる。
- ・地域構想と関わる授業外学習のための学習計画を立てることができる
- ・課題解決型学習を行った成果を、報告書にまとめることができる。

【概要】 これまで履修したコミュニティ構想専門科目などを通じて身につけた社会科学的な知識に基づき、学際的、実践的な知識を深め、勉学のさらなる展開をはかる。この授業では、地域参加、まちづくり、ケアやサポート、ホスピタリティ、国際協力などに関わるキャリア実践についてワークショップ形式なども採り入れて学ぶ。さらに、卒業論文や就職活動なども視野に入れて、基礎知識の習得に加え、専攻領域で卒業研究をすることの意味という理念的側面、実践のリテラシーについて学ぶ。

234407 コミュニティ調査実習（企画・立案・設計）

【到達目標】

- ・コミュニティ社会調査のリテラシーを再確認する。
- ・コミュニティ社会調査という学問的な方法を身につける。
- ・コミュニティ社会調査法の知識を得る。
- ・コミュニティ社会調査の企画立案ができる。

【概要】 自己形成、キャリア開発、市民参加、ケアやサポート、経営とイノベーション、行政法制度、共生とツーリズムなどコミュニティ構想の学際実践領域において社会調査を行うことの意味と何かという理念的側面、各領域で採用される調査方法の概要などについて学ぶ。それぞれの専攻領域における調査研究の方法論、調査報告書などの先行研究を読み解き、調査計画の立案、調査票の設計などをめぐる考え方を理解する。その上で、調査を実際に計画立案し、実際に用いる調査方法を決定し、調査票等を設計する。

234408 コミュニティ調査実習（実査と分析）

【到達目標】

- ・事例研究を中心とする質的調査法について、聴き取り、観察、文書資料の解読などを実際に実施しながら理解する。
- ・質問紙によるアンケートを中心とする量的調査法について、データ収集、集計、分析の共同作業を実際に実施しながら理解する。
- ・調査結果を分析し、報告書を作成できる。

【概要】 自己形成、キャリア開発、市民参加、ケアやサポート、経営とイノベーション、行政法制度、共生とツーリズムなどコミュニティ構想の学際実践領域における調査研究の理念、方法などの理解に基づきコミュニティ調査実習（企画・立案・設計）で立案された調査計画、設計された調査票をもとに、調査を実施し、データを整理し、分析を行う。採用する調査方法（量的調査法、質的調査法など）の特徴を理解し、調査対象の選定、調査の実施、コード化と集計、結果の解釈、報告書の作成などの実際について実習を通して学ぶ。自ら質問紙調査、聞き取り調査などを行うことを学ぶことで、社会調査の方法を卒業論文研究にもちいるための準備とする。

234409 3年次演習（コミュニティ構想）Ⅰ

【到達目標】

- ・ゼミで扱う特定領域の主要論点の概要を理解する。
- ・それらをめぐる研究状況、考え方などを理解する。
- ・討論を通し、高度なコミュニケーションスキルを身につける。

【概要】 「3年次演習（コミュニティ構想）Ⅰ」では、2年次までの専攻必修科目などを通じて身につけた社会科学的な知識に基づき、学際的、実践的な研究を進めるにあたって必須となる知識を深め、勉学のさらなる展開をはかる。コミュニティ構想の多種多様な研究分野の中から自らの専攻領域を決め、その領域における特徴的な思考法について、テキストの精読や自主的な研究発表、およびそれをめぐる討論などによる演習形式で学習する。

234410 3年次演習（コミュニティ構想）Ⅱ

【到達目標】

- ・特定の研究主題についての先行研究を読解する。
- ・研究主題についての報告、討論できる。
- ・それに基づき、レポートを作成する能力を養う。

【概要】 「3年次演習（コミュニティ構想）Ⅰ」で選択した専攻学際実践領域の概要を踏まえながら、それぞれの領域における代表的な先行研究の展開、基本的な研究主題、研究方法などについて、テキストの精読や自主的な研究発表、およびそれをめぐる討論などによる

演習形式で学習する。さらに、4年次における卒業論文制作を視野に入れて、基礎知識の習得に加え、専攻領域で卒業研究をすることの意味という理念的側面、および社会調査法・文献研究法など方法的側面の双方について学びながら、卒業論文制作の前段階となる基礎を作る。

234411 4年次演習(コミュニティ構想)Ⅰ

【到達目標】

- ・ 研究主題を確定する能力を身につける。
- ・ 研究の計画立案ができるようになる。
- ・ 理論構成、理論展開のための能力を養う。

【概要】 3年次に選択した専攻学際実践領域の基礎知識を踏まえながら、同一の専攻領域における各々の研究課題の設定、および研究設計の手がかりとなる応用的知識について学ぶ。4年次前期に確定した卒業論文の題目に基づいて、学生自身が主体的に卒業論文を完成させるのに必要な知見、方法などについて、自主的な発表、討論などによる演習形式で学習する。

234412 4年次演習(コミュニティ構想)Ⅱ

【到達目標】

- ・ 論文のまとめ方についての基礎知識を得る。
- ・ 報告を通じて、問題構成や展開、論証について、討論できるようになる。
- ・ 卒業研究を総括し、反省点をまとめる能力を養う。

【概要】 「4年次演習(コミュニティ構想)Ⅰ」で計画立案した研究課題・研究設計を踏まえて、各自の研究主題に沿ったかたちでの研究発表を行う。そして、研究の構想、問題の設定、先行研究のレビュー、理論構成や理論展開から、目次立て、分析方法、行論などに至るまで、各自の研究の問題点を批判的に検討し合う。そして、さらに発表や討論を重ねることにより、卒業論文の内容の深化をはかる。あわせて、卒業論文執筆のための技法を具体的に指導していく。